

一般国道442号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

福岡県八女市大島・納楚所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第94集

2012

八女市教育委員会

一般国道 4 4 2 号八女筑後バイパス

埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

おおじま のうそ
福岡県八女市大島・納楚所在遺跡の調査報告書

平成 2 1 年度調査

やなぎ
柳遺跡 7 地点（4 次調査）遺物編

平成 2 2 年度調査

ふなぞこ
船底遺跡（3 次調査）

はったんばたけ
八反畑遺跡

序

国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴い、平成13年度から当教育委員会では事業地内の埋蔵文化財発掘調査を進めております。

平成22年度は、八女市納楚及び大島地区の遺跡の発掘調査を実施いたしました。その結果、弥生時代を中心として貴重な遺跡が発見され、この地域の文化を考える上で重要な成果をあげることができました。

発掘調査にあたりまして、終始ご協力いただきました福岡県、福岡県八女県土整備事務所、地元町内会、福岡県教育委員会をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

平成24年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- 1 一般国道442号八女筑後バイパス建設事業に伴う発掘調査は、福岡県土木事務所（現福岡県八女県土整備事務所）の依頼を受け、平成13年度を初年度として継続して実施しているが、本書は平成22年度に発掘調査を実施した遺跡の発掘調査報告書である。なお、平成21年度に発掘調査を行った柳遺跡（4次調査）の遺物について本年度は遺物編を収録している。
- 2 発掘調査は、平成22年度に八女市教育委員会が主体となり実施した。なお、出土した遺物については、平成23年度に岩戸山歴史資料館において整理を行い、遺物も同所で保管している。
- 3 遺構の実測は、国土地理院の設定する第Ⅱ座標系を基準としている。
- 4 本書に用いた写真は、空中写真は（有）空中写真企画に委託して製作し、各遺跡の遺構の写真は中川が撮影した。
- 5 本書の執筆、編集は中川が行った。

本文目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	2
3 各遺跡の調査概要	4
平成21年度調査	
(1) 柳遺跡7地点(4次調査) 遺物編	4
① 発掘調査の概要	
② 出土遺物	
平成22年度調査	
(1) 船底遺跡(3次調査)	30
① 発掘調査の概要	
② 遺構と遺物	
③ まとめ	
(2) 八反畑遺跡	42
① 発掘調査の概要	
② 遺構と遺物	
③ まとめ	

挿図目次

第1図	一般国道442号八女筑後バイパス 船底遺跡(3次調査)・八反畑遺跡と周辺の遺跡分布図 [1/25, 000]
第2図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB15~20) 出土土器実測図 [1/4]
第3図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB21・22) 出土土器実測図 [1/4]
第4図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB23・24・26・28) 出土土器実測図 [1/4]
第5図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB29・32・33) 出土土器実測図 [1/4]
第6図	柳遺跡4次 土壇(SK63~66・68・69・72~73) 出土土器実測図 [1/4]
第7図	柳遺跡4次 土壇(SK74) 出土土器実測図 [1/4]
第8図	柳遺跡4次 土壇(SK77・80~82・86) 出土土器実測図 [1/4]
第9図	柳遺跡4次 土壇(SK88) 出土土器実測図 [1/4]
第10図	柳遺跡4次 溝(SD17①) 出土土器実測図 [1/4]
第11図	柳遺跡4次 溝(SD17②) 出土土器実測図 [1/4]
第12図	柳遺跡4次 溝(SD17③) 出土土器実測図 [1/4]
第13図	柳遺跡4次 溝(SD17④) 出土土器実測図 [1/4]
第14図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB15~17・20・22) 土壇(SK73) 溝(SD17) 出土土製品実測図 [1/2]
第15図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB22)・土壇(SK66)・ピット(P21) 出土土器実測図 [1/1]
第16図	柳遺跡4次 竪穴住居(SB16・17・22・26・29・33) 土壇(SK81・88) 溝(SD17) 出土土製品実測図 [1/2]

- 第17図 柳道跡4次 竪穴住居 (SB15・16・20・22・23・26・28) 溝 (SD17) 出土石製品実測図 (1/3)
- 第18図 柳道跡4次 竪穴住居 (SB15・17・19・20・22・26) 土壌 (SK84) 溝 (SD17) 出土石製品実測図 (1/3)
- 第19図 柳道跡4次 竪穴住居 (SB22) 土壌 (SK64・74) 溝 (SD17) 出土石製品実測図 (1/4)
- 第20図 一般国道442号八女筑後バイパス 船底遺跡 (3次調査) 調査位置図 (1/2, 500)
- 第21図 船底遺跡3次 遺構配置図 (1/300)
- 第22図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01) 実測図 (1/60)
- 第23図 船底遺跡3次 土壌 (SK01~07) 実測図 (1/40)
- 第24図 船底遺跡3次 溝 (SD01) 土層実測図 (1/60)
- 第25図 船底遺跡3次 南側壁土層実測図 (1/60)
- 第26図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01) 出土土器実測図 (1/4)
- 第27図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01) 出土土器実測図 (1/4)
- 第28図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01・02) 土壌 (SK05・07) 溝 (SD01) 不明遺構 (SX01) 出土土器実測図 (1/4)
- 第29図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01) 出土土器実測図 (1/2)
- 第30図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01・02) 溝 (SD01) 出土石製品実測図 (1/2)
- 第31図 船底遺跡3次 溝 (SD01) 出土石製品実測図 (1/3)
- 第32図 船底遺跡3次 溝 (SD01) 出土石製品実測図 (1/4)
- 第33図 一般国道442号八女筑後バイパス 八反畑遺跡 調査位置図 (1/2, 500)
- 第34図 八反畑遺跡 遺構配置図 (1/300)
- 第35図 八反畑遺跡 櫓列 (SA01) 実測図 (1/60)
- 第36図 八反畑遺跡 土壌 (SK01~04) 実測図 (1/40)
- 第37図 八反畑遺跡 南側壁土層実測図 (1/60)

表 目 次

- 表1 柳道跡4次 SB・SK・SD 出土土器観察表 ①~⑤
- 表2 柳道跡4次 SB・SK・SD 出土土製品観察表
- 表3 柳道跡4次 SB・SK・ビット 出土玉類観察表
- 表4 柳道跡4次 SB・SK・SD 出土石製品観察表 ①~②
- 表5 船底遺跡3次 SB・SK・SD・SX 出土土器観察表
- 表6 船底遺跡3次 SB 出土土製品観察表
- 表7 船底遺跡3次 SB・SD 出土石製品観察表

図版目次

- 図版1 (1) 船底遺跡3次 発掘調査前 航空写真 (平成20年度撮影)
(2) 船底遺跡3次 航空写真
- 図版2 (1) 船底遺跡3次 航空写真
(2) 船底遺跡3次 全景 (東から)
- 図版3 (1) 船底遺跡3次 SB01
(2) 船底遺跡3次 SB01 遺物出土状況

- (3) 船底遺跡3次 SB01 遺物出土状況
- (4) 船底遺跡3次 SB02 (左側)
- 図版4 (1) 船底遺跡3次 SK01 (手前)・SK02 (奥)
- (2) 船底遺跡3次 SK03 (手前)・SK06 (奥)
- (3) 船底遺跡3次 SK04 (奥)・SK05 (手前)
- (4) 船底遺跡3次 SK07
- 図版5 (1) 船底遺跡3次 SK03土層
- (2) 船底遺跡3次 SK04土層
- (3) 船底遺跡3次 SK07土層
- (4) 船底遺跡3次 東側壁土層
- 図版6 (1) 船底遺跡3次 SD01
- (2) 船底遺跡3次 SX01
- (3) 船底遺跡3次 SD01土層
- (4) 船底遺跡3次 作業風景
- 図版7 (1) 八反畑遺跡 発掘調査前 (西から)
- (2) 八反畑遺跡 航空写真
- 図版8 (1) 八反畑遺跡 航空写真
- (2) 八反畑遺跡 全景 (東から)
- 図版9 (1) 八反畑遺跡 SA01
- (2) 八反畑遺跡 SK01
- (3) 八反畑遺跡 SK02
- 図版10 (1) 八反畑遺跡 SK03
- (2) 八反畑遺跡 SK04
- (3) 八反畑遺跡 SD01
- 図版11 (1) 八反畑遺跡 北側壁土層
- (2) 八反畑遺跡 南側壁土層
- (3) 八反畑遺跡 SK01土層
- (4) 八反畑遺跡 SK02土層
- 図版12 (1) 八反畑遺跡 SK03土層
- (2) 八反畑遺跡 SK04土層
- (3) 八反畑遺跡 SD01土層

1 はじめに

国道442号は、大分県大分市を起点とし竹田市、熊本県小国町などを経由して、福岡県大川市に至る総延長174.6km（実延長148.6km）の広域幹線道路であり、九州を横断する有数の主要幹線道路として、福岡・熊本・大分三県の産業、経済、文化の発展に重要な役割を果たしている。

国道442号バイパス（八女～大川）は、この内の福岡県八女市から福岡県大川市間17.42kmについて、交通混雑の解消を目的として、昭和63年度から事業が着手され現在随時部分供給しながら改良工事が行われている。

事業効果として沿線地域における八女地域の「八女茶」・「伝統工芸品」、筑後市から大川市にかけての「家具」をはじめとする「工業製品」等の流通の迅速化や、豊かで雄大な自然と観光資源に恵まれた熊本・大分地方への主要交通ルートとして、このバイパスの重要性はますます高まるものと期待されている。

また、このバイパスの整備により前述したように八女～大川間の交通混雑の解消はもとより、福岡・熊本・大分三県の産業・経済・文化交流の活性化を促進し、沿線地域の産業・経済の発展と生活機能の向上に大きく寄与するものである。

平成22年10月に国道442号バイパスの筑後市大字久富（県道筑後城島線）から筑後市大字高江（県道瀬高久留米線）までの延長1.1km区間が開通し、八女市大島（国道3号「大島三叉路交差点」）から大川市大橋（国道442号「入道橋東交差点」）までの約16km間の連続通行が可能となった。

平成23年度は、平成21年度に発掘調査を実施した柳遺跡4次調査の出土遺物の報告と平成22年度に発掘調査を実施した船底遺跡3次調査、八反畑遺跡の整理作業を行い、平成23年度にまとめて刊行することとした。

平成21年度・平成22年度・平成23年度の調査関係者は次のとおりである。

平成21年度（1月31日まで）

八女市教育委員会

教 育 長	中 島 清 志
社会教育課課長	飯田せつ子
社会教育課参事補佐	江 崎 邦 博
文化財係係長	赤 崎 敏 男
同 係 員	中川寿賀子
	大 塚 恵 治

平成21年度（2月1日から）

八女市教育委員会

教 育 長	中 島 清 志
教 育 部 長	飯田せつ子
文化課課長	井 上 富 雄
文化財係係長	赤 崎 敏 男
同 主 任	中川寿賀子
同 係 員	大 塚 恵 治
	永 田 寧
	樋 口 真 弓

平成22年度

八女市教育委員会

教 育 長	西 島 民 生
教 育 部 長	飯田せつ子
文化課課長	井 上 富 雄
文化財係係長	中川寿賀子
同 係 員	大 塚 恵 治
	永 田 寧
	渡 部 真 弓

平成23年度

八女市教育委員会

教 育 長	西 島 民 生
教 育 部 長	飯田せつ子
文化課課長	井 上 富 雄
文化振興係係長	中川寿賀子
文化財係係長	大 塚 恵 治
同 係 員	永 田 寧
	渡 部 真 弓

2 位置と環境

八女市と八女郡広川町の境界をなす八女台地は、古くから「長峰」の名で親しまれている洪積台地で、その南側には洪積台地下に沖積地が広がり、広大な平野を形成している。国道3号線と国道442号線の交差する八女市納楚から忠見にかけて、国道南側では矢部川が氾濫を繰り返した痕跡がよく残り、北側では標高36mから37mとほぼ平坦な水田が広がっている。

今回発掘調査を実施した納楚地区は矢部川・星野川によって形成された扇状地に位置する。地名辞典によれば納所の展化かと記載されている。地区内は、弥生時代の遺跡が数多く見つまっている。江戸時代から納楚村と呼ばれており、江戸期～明治22年までその名が使用されている。田中吉政時代は柳川藩領に属し、元和6年(1620)からは久留米藩領となる。忠見組に属し、文化4年(1807)には本田29町6反余・畑田12町3反余・畑5町5反余・居屋敷6反余であった。

また、大島地区は筑後川支流山ノ井流域の平地に位置する。江戸時代は大島村とよばれており、納楚村同様江戸期～明治22年までその名が使用されている。田中吉政時代は柳川藩領に属し、元和6年からは久留米藩領となる。福島組に属し、文化4年には本田29町6反余・畑田2町5反余・畑2町4反余・居屋敷4反余であった。

平成22年度は、平成21年度に発掘調査を実施した八女市納楚の船底遺跡2次調査の西側と、平成20年度に発掘調査を実施した八女市大島の今屋敷遺跡の南側の2遺跡を中心として発掘調査を実施した。

今回発掘調査を実施した船底遺跡3次調査の東側では平成17年度から一般国道442号バイパス建設のための発掘調査が実施されており、弥生時代後期から終末期を中心とした集落跡が見つかっており、本遺跡の北側でも東側と同様道路建設のための発掘調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての集落や墳墓群が見つまっている。納楚地区は、納楚遺跡群があり広範囲にわたり遺跡が広がっていることが確認されている。

また大島地区においては八反畑遺跡の発掘調査を実施した。大島地区は、一般国道3号の東側が発掘調査対象区域となっており、平成19年度には本遺跡の北西50mに位置する茶ノ木田遺跡の調査が実施され、翌平成20年度には本遺跡の南側に位置する今屋敷遺跡の発掘調査が実施され近世を中心とする遺構が確認されている。

【参考文献】

唐木田芳文監修 2004『福岡県地学のガイド』コロナ社

「角川日本地名大辞典」編纂委員会編 1988『角川日本地名大辞典 40 福岡県』角川書店



1. 船底遺跡3次 2. 八反畑遺跡 3. 柳遺跡4次 4. 船底遺跡2次 5. 柳遺跡 6. 柳遺跡2次
 7. 柳遺跡3次 8. 楠町遺跡 9. 10. 楠町遺跡2次 11. 楠町遺跡3次 12. 船底遺跡 13. 牟田遺跡
 14. 今屋敷遺跡 15. 茶ノ木田遺跡 (1~15: 一般国道442号八女筑後バイパス関係)
 16. 岩戸山古墳 17. 乗場古墳 18. 善蔵塚古墳 19. 丸山塚古墳 20. 茶臼塚古墳 21. 鶴見山古墳
 22~25. 釘崎古墳 26. 丸山古墳 27. 長峰地区条里 28. 吉田地区条里 29. 福島中学校校庭遺跡
 30. 平田・六反田遺跡 31. 平田・北ノ前遺跡 32. 万上田遺跡 33. 赤氏遺跡 34. 熊野遺跡
 35. 高島遺跡 36. 後ノ江遺跡 37. 津ノ江遺跡 38. 祈禱院遺跡、白石遺跡 39. 高野町遺跡
 40. 鈍土羅石館、本町遺跡 41. 南中学校校庭遺跡 42. 鍛冶屋遺跡

第1図 一般国道442号八女筑後バイパス 船底遺跡(3次調査)・
 八反畑遺跡と周辺の遺跡分布図(1/25,000)

3 各遺跡の調査概要

平成21年度調査

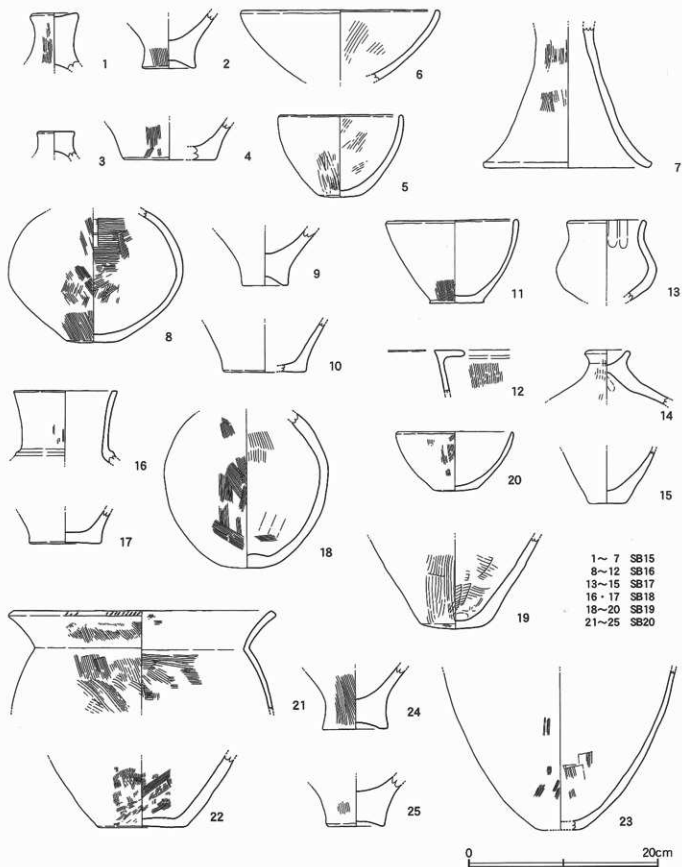
(1) 柳遺跡7地点(4次調査)遺物編

① 発掘調査の概要

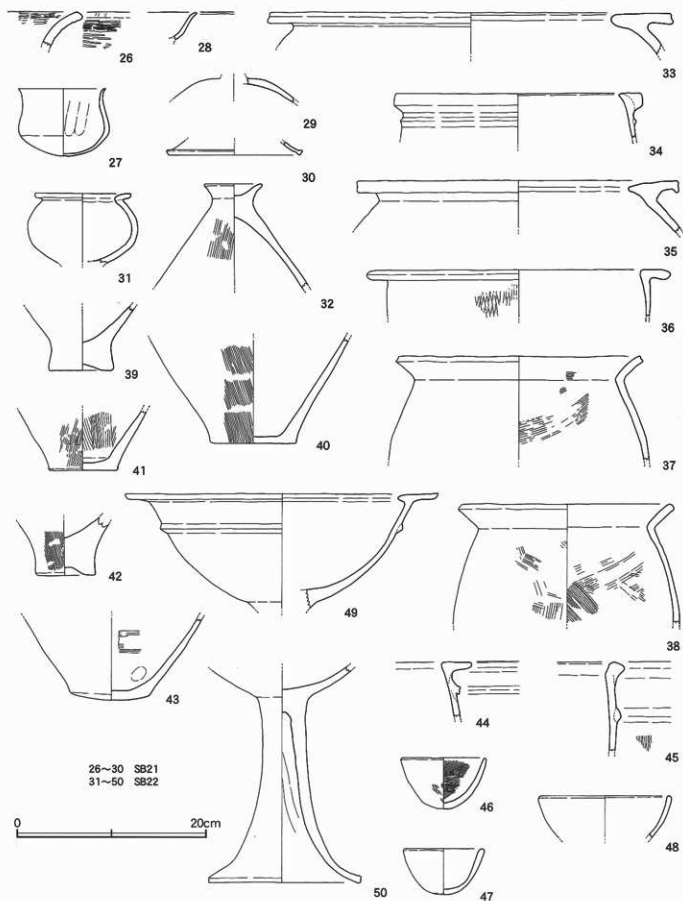
本遺跡は、八女市納楚字柳に所在しており、平成21年度に発掘調査を実施した。調査の結果、弥生時代から奈良時代にかけての竪穴住居19軒、土壇28基、溝2条が見つかった。

② 出土遺物

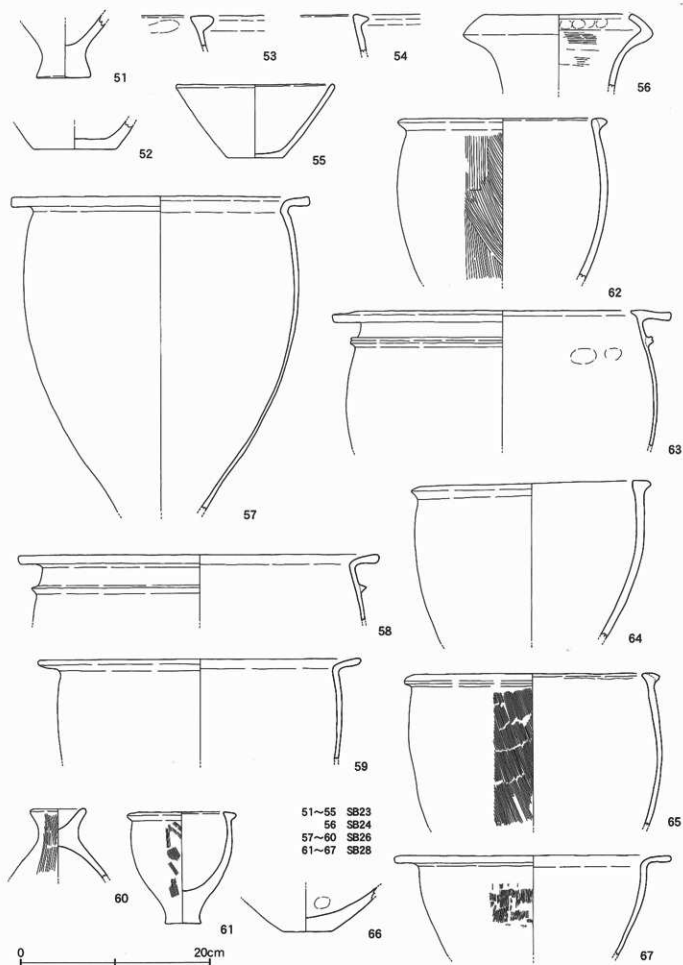
出土遺物は、竪穴住居、土壇、溝から多量の弥生時代中期から後期の弥生式土器・石器・玉類が出土しており、その他に奈良時代の須恵器や土師器も数点出土している。



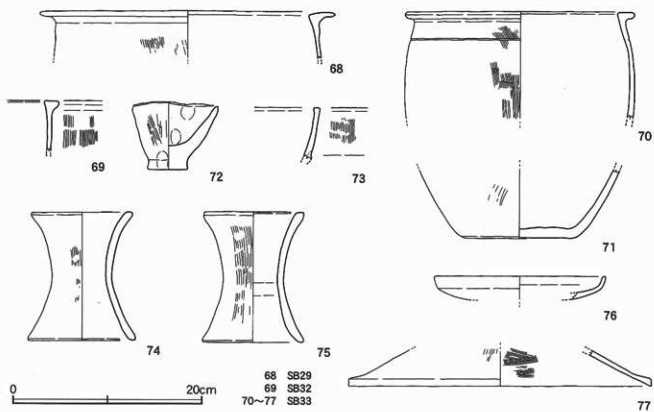
第2図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB15~20)出土土器実測図〔1/4〕



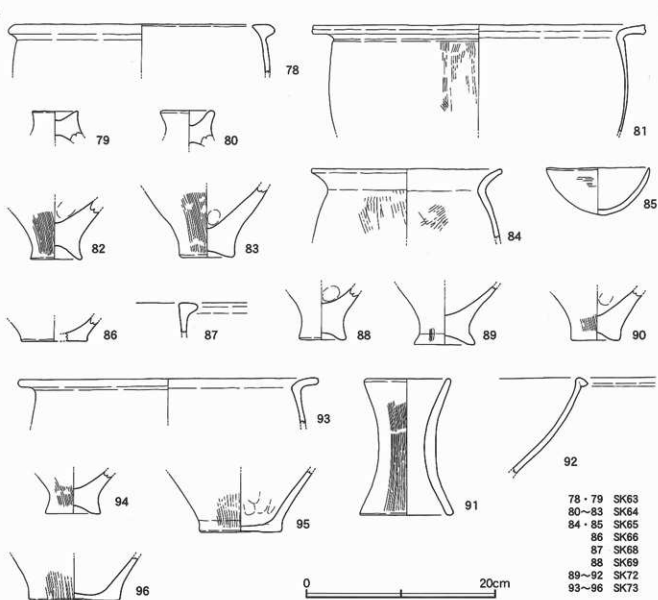
第3圖 柳遺跡4次 竪穴住居（SB21・22）出土土器実測圖〔1／4〕



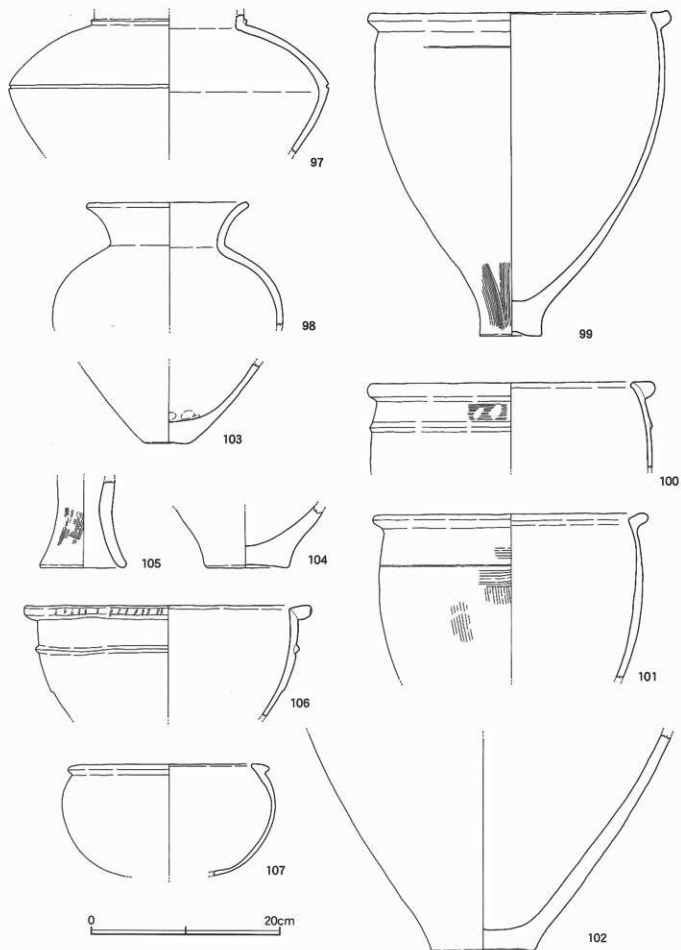
第4図 柳遺跡4次 竪穴住居(SB23・24・26・28)出土土器実測図(1/4)



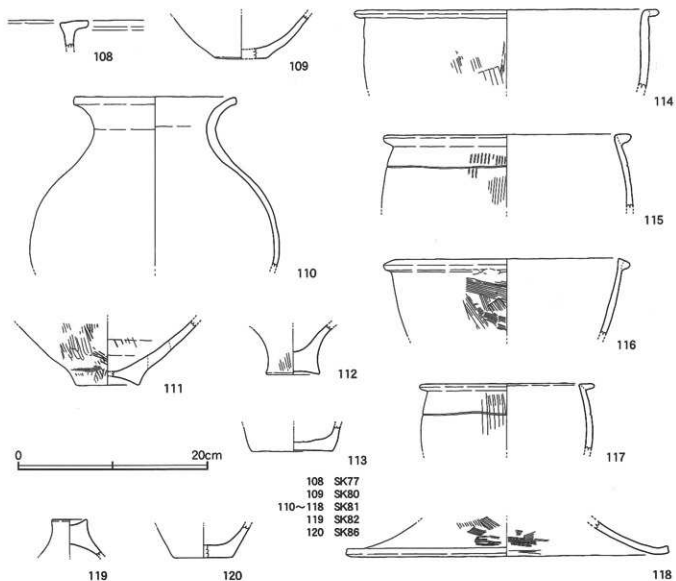
第5図 柳遺跡4次 竪穴住居（SB29・32・33）出土土器実測図（1／4）



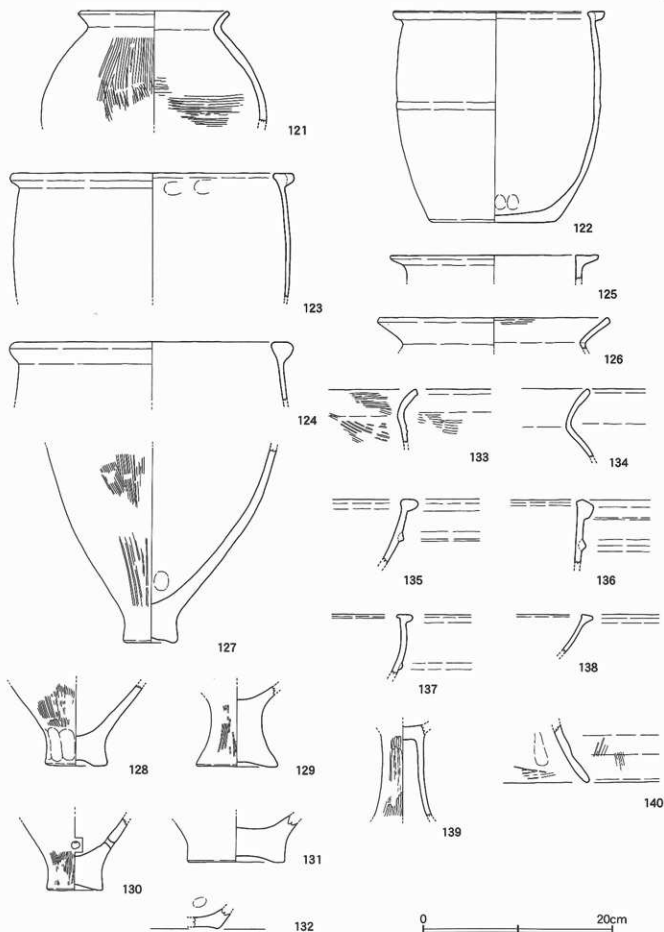
第6図 柳遺跡4次 土坑 (SK 63～66・68・69・72～73) 出土土器実測図〔1/4〕



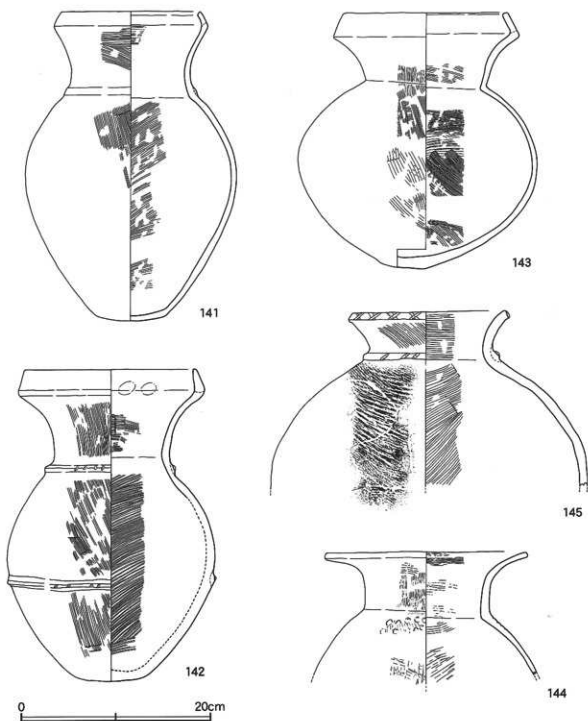
第7図 柳遺跡4次 土坑(SK74)出土土器実測図〔1/4〕



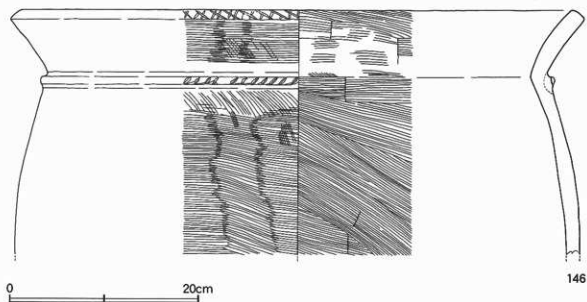
第8圖 柳遺跡4次 土壙(SK77・80~82・86)出土土器実測図〔1/4〕



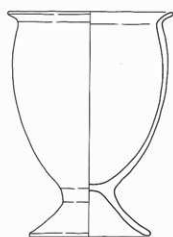
第9圖 柳遺跡4次 土坑(SK88)出土土器実測圖〔1/4〕



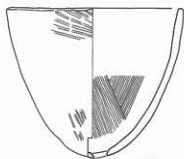
第10図 柳遺跡4次 溝(SD17①)出土土器実測図〔1/4〕



第11図 柳遺跡4次 溝 (SD 17 ②) 出土土器実測図 (1/4)



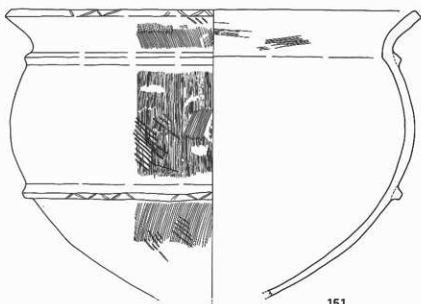
147



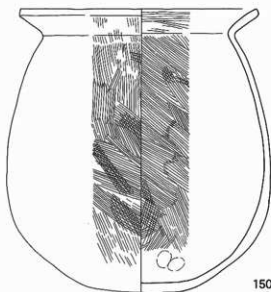
148



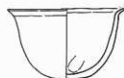
149



151



150



152



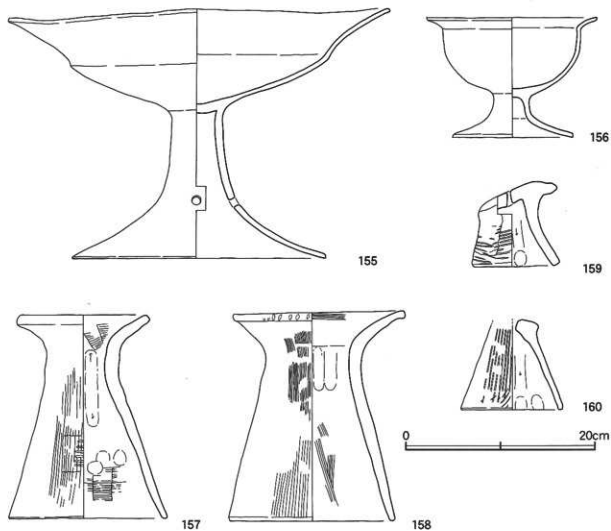
153



154

0 20cm

第12図 柳遺跡4次 溝(SD17③)出土土器実測図〔1/4〕



第13図 柳遺跡4次 溝(SD17④)出土土器実測図(1/4)

図号	通物 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第2図	1	SB15	蓋 (つまみ片)	つまみ 5.0			石灰及び片岩粒を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	ハケ目 (厚粉)	ナデ、不明 (厚粉)	黒底有り
	2		蓋 (つまみ片)	つまみ 4.0			石灰及び片岩粒を多く含む。	暗黄茶色/淡茶色	やや良好	ナデ	ナデ	黒底有り
	3		甕 (底面片)		5.2		片岩粒を少量含む。	淡黄茶褐色	やや良好	ハケ目 (厚粉)、ナデ	ナデ	
	4		甕 (底面片)		10		片岩、蛭石片を少量含む。	暗茶灰褐色/ 茶灰褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	新腐の為不明	
	5		鉢 (1/2面)	(13.1)	4.5	8.5	片岩、赤色粒を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	不明、ハケ目	ハケ目、指押え	黒底有り
	6		鉢 (口縁部片)	(21)			片岩、石灰、角閃石顆粒を多く含む。	暗茶灰色	やや良好	不明	ハケ目	
	7		高坏 (胴部片)		17.6		片岩、石灰、角閃石、赤色粒を多く含む。	淡黄茶色/淡黄色	やや良好	ハケ目	不明	
	8	SB16	蓋 (下面片)		5.7		石灰、片岩粒を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	ハケ目後ナデ	ハケ目、ナデ	黒底有り
	9		甕 (底面片)		4.9		片岩粒を多く含む。	赤茶褐色/ 暗黄灰褐色	やや良好	不明、ナデ	ナデ	
	10		甕 (底面片)		(8.7)		片岩、角閃石顆粒を多く含む。	淡黄褐色/黒灰色	やや良好	不明	不明	内面黒底有り
	11		鉢 (3/4面)	14.1	5.8	8.5	片岩粒を少量含む。	暗黄灰褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	不明、ナデ	黒底有り
	12		甕 (口縁部片)				石灰及び片岩粒、角閃石を多く含む。	暗茶褐色	やや良好	ハケ目、ヨコナデ	不明	
	13		蓋 (2/4面)	(8.5)			石灰及び片岩粒を多く含む。	暗黄茶褐色/ 暗灰茶褐色	やや良好	ナデ、不明	指押え、ナデ	
	14	SB17	蓋 (つまみ片)	つまみ 4.8			片岩、石灰、角閃石、赤色粒を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	不明、ハケ目	指押え、不明	
	15		甕 (底面片)		4.1		石灰及び片岩粒を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	ナデ、不明	不明	
	16	SB18	蓋 (口縁部片)	10.9			片岩粒を含む。	淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ後ハケ目	ヨコナデ	
	17		甕 (底面片)		7.6		片岩粒を含む。	黄茶灰褐色	やや良好	不明	不明	
	18	SB19	蓋 (下面片)				石灰及び片岩粒を多く含む。 赤色粒を少量含む。	黄茶褐色/ 暗灰茶褐色	やや良好	ハケ目 (厚粉)	ハケ目後ナデ	黒底有り
	19		甕 (底面片)		7.0		片岩、石灰、赤色粒を多く含む。	黄茶色/ 淡黄茶色	やや良好	ハケ目	ハケ目	黒底有り
	20		小鉢 (4/5面)	12.4	4.5	6.2	片岩、石灰粒を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	ハケ目 (厚粉)、不明	不明	
	21	SB20	甕 (口縁部片)	(27)			片岩、石灰粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目後ヨコナデ	
	22		甕 (底面片)		(9.2)		片岩、角閃石、赤色粒を多く含む。	暗茶灰褐色/ 淡黄茶色	やや良好	不定方向のハケ目	不定方向のハケ目	黒底有り
	23		甕 (下面片)				片岩粒及び石灰を少量含む。	暗茶灰褐色/ 明黄茶褐色	やや良好	ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	
	24		甕 (底面片)		6.9		石灰及び片岩粒を多く含む。	茶灰褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	不明	
	25		甕 (底面片)		6.2		石灰及び片岩粒を多く含む。 明黄茶褐色/ 暗黄茶褐色	明黄茶褐色/ 暗黄茶褐色	やや良好	ハケ目 (厚粉)、不明	不明	
	26	SB21	蓋台 (口縁部破片)				片岩、石灰顆粒、雲母微粒子を多く含む。	茶褐色	やや良好	タタキ	ハケ目	
	27		土師器 (3/4面)	9.2		7.0	細砂粒、赤色粒を少量含む。	淡赤茶色	良好	ナデ	ナデ	
	28		須恵器 (口縁部破片)				片岩細粒を少量含む。 磨滅されている。	明灰茶色	良好	回転ナデ	回転ナデ	
	29		須恵器 蓋 (破片)				片岩細粒を少量含む。 磨滅されている。	明灰茶色	良好	回転ヘラ削り、回転ナデ	回転ナデ	
	30		須恵器 脚部片		(14.3)		片岩、石灰顆粒を多く含む。	明灰茶色	やや良好	回転ナデ	回転ナデ	
	31	SB22	脚付蓋 (上面片)	(10.2)			ほぼ磨滅されている。	丹塗	やや良好	ナデ	ナデ	丹塗 (全面)
	32		蓋 (上面片)	つまみ 6.2			石灰及び片岩粒を多く含む。 角閃石を少量含む。	淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目 (厚粉)、ナデ	不明、ナデ (厚粉)	黒底有り
	33		甕 (口縁部片)	(42.4)			片岩、石灰顆粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ヨコナデ	不明	
	34		甕 (口縁部片)	(26.2)			片岩粒を少量含む。	暗灰褐色	やや良好	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	
	35		甕 (口縁部片)	(33.9)			片岩、赤色粒を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、不明	ヨコナデ、不明	
	36		甕 (口縁部片)	(32)			片岩、赤色粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ヨコナデ目、タテハケ目	不明	

※ (復元図)

表1 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土土器観察表①

探跡 番号	遺物 番号	出土 遺物	器 種	口 径 (cm)	底 径 (cm)	器 高 (cm)	胎 土	色 調	焼 成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第3区	37	SB22	甕 (口縁部片)	(26)			多量の赤土、角閃石微粒子、片岩 粒子を含む。少量の石英を含む。	暗茶色/ 淡黄茶色	やや良好	ヨコナデ、ヘラナデ	不明、ハケ目 (摩耗)	
	38	■	甕 (口縁部片)	(22.7)			片岩、角閃石微粒子を多く含む。	黄褐色/ 淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目 (摩耗)	
	39	■	甕 (底部片)		6.8		石英及び片岩粒を多く含む。	暗茶褐色/ 黄茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	40	■	甕 (底部片)		9.1		石英、片岩粒子、赤色粒子を少量 含む。	暗茶褐色/ 淡黄茶褐色	やや良好	ハケ目 (摩耗)	不明	
	41	■	甕 (底部片)		7.2		石英、片岩粒を多く含む。	淡黄茶色/暗灰色	やや良好	ハケ目、指押入	ハケ目、不明	
	42	■	甕 (底部片)		6.3		石英及び片岩粒を多く含む。	黄茶褐色/ 暗茶褐色	やや良好	ハケ目 (摩耗)	不明	
	43	■	甕 (底部片)		8.1		片岩粒子を少量含む。	黄茶褐色/ 暗茶褐色	やや良好	ナデ	ハケ目後ナデ、指押入	黒底有り
	44	■	甕 (口縁部破片)				角閃石、片岩微粒子を多く含む。	丹塗/丹塗	良好	ヨコナデ	不明	丹塗
	45	■	甕 (口縁部破片)				多量の石英、片岩粒子と、角閃石 粒子を少量含む。	黄茶色/黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	不明	
	46	■	小型丸底鉢	9.0		5.3	細砂状を含む。赤色粒子を少量 含む。	淡黄灰色/ 淡黄茶色	やや良好	ハケ目 (摩耗)	ハケ目	
第4区	47	■	鉢 (1/2割)	(8.5)	(2.2)	(4.8)	片岩、石英、赤色粒子を多く含む。	淡黄褐色/淡灰色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)、指押入	
	48	■	土師器?鉢 (口縁部片)	(14)			片岩、石英微粒子を少量含む。 磨滅されている。	淡灰色	良好	ナデ	ナデ	
	49	■	高杯 (呼部片)	(33)			片岩微粒子を少量含む。 磨滅されている。	丹塗/丹塗	良好	ヨコナデ、不明	ヘラナデ	丹塗
	50	■	高杯 (呼部片)		(16)		少量の赤色粒子を含む。 ほぼ磨滅されている。	丹塗/丹塗	やや良好	不明、工具によるナデ	ナデ、不明、しぼり底	丹塗
	51	SB23	甕 (底部片)		5.7		片岩粒を多く含む。	淡黄茶色/ 暗茶褐色	やや良好	不明	不明	
	52	■	甕 (底部片)		(8.6)		石英及び片岩粒を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	ナデ	ナデ、指押入	黒底有り
	53	■	甕 (口縁部破片)				片岩、石英、赤色粒子を多く含む。	淡黄褐色/淡灰色	やや良好	不明	指圧痕	
	54	■	甕 (口縁部破片)				石英、片岩粒を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	55	■	鉢 (2/4割)	16.7	6.0	7.8	石英、片岩粒を多く含む。	黄茶褐色/ 黄茶灰褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	56	SB24	黄灰口縁甕 (口縁部 片)	(15.5)			片岩、石英、赤色粒子を多く含む。	淡黄灰色/淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	ハケ目、指圧痕	黒底有り
第5区	57	SB26	甕 (上部片)	(31.2)			片岩、赤色微粒子を多く含む。	淡黄灰色/ 暗茶褐色	やや良好	ヨコナデ、不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	58	■	甕 (口縁部片)	(38)			片岩、長石、角閃石微粒子を多く 含む。	淡灰褐色/ 暗茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	59	■	甕 (口縁部片)	34			片岩粒を少量含む。	黄茶色/ 淡黄茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	60	■	蓋 (つまみ部)				片岩粒を少量含む。	淡黄茶色	やや良好	ナデ後ハケ目	ナデ	
	61	SB28	甕 (1/2片割)	11.4	3.8	11.6	石英、片岩粒を多く含む。	黄茶褐色/ 暗茶灰褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	
	62	■	甕 (上部片)	(22)			石英、片岩粒を多く含む。	黄茶褐色/ 暗茶灰褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	
	63	■	甕 (口縁部片)	(35.7)			片岩、石英、角閃石粒子を多く含 む。	丹塗	やや良好	不明	ヨコナデ、指押入	内外丹塗
	64	■	甕 (上部片)	25.3			石英、片岩粒を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	
	65	■	甕 (上部片)	26.8			石英、片岩粒を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	黄茶色	やや良好	ハケ目	不明	
	66	■	甕 (底部片)		5.2		石英、片岩粒を多く含む。	赤茶褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明、指押入	
第6区	67	■	鉢 (口縁部片)	(29.2)			片岩、石英粒子、角閃石微粒子 を多く含む。	淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	不明 (摩耗)	
	68	SB29	甕 (口縁部破片)	(31)			片岩、赤色微粒子を多く含む。 4mm程度の石英粒を少量含む。	淡黄褐色	良好	ヨコナデ、ハケ目	不明	
	69	SB32	甕 (口縁部破片)				石英及び片岩粒を多く含む。	暗茶褐色/ 黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	不明 (摩耗)	
	70	SB33	甕 (口縁部片)	(24)			石英、片岩、角閃石粒子を多く含 む。	暗灰茶色/ 茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、沈澱	ナデ	
	71	■	甕 (底部片)		(12)		片岩、石英粒子、赤色粒子を多く 含む。	淡黄白色/ 淡黄褐色	やや良好	ハケ目 (摩耗)	不明	黒底有り
	72	■	鉢 (口縁部破片)				石英、片岩粒、重層微粒子を含む。	暗茶灰色/黄茶色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	ナデ	

※ (復元例)

表1 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土土器観察表②

洞窟 番号	遺物 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考	
										外 面	内 面		
第5区	73	SB33	小鉢 (完形品)	8.8	4.3	7.0	片岩粒子、白色砂粒を少量含む。	淡黄茶色/ 明黄茶色	やや良好	ハケ目(摩耗)、指圧痕、不明	ナデ (指圧痕)		
	74	■	器台 (2/3割)	10.6	11.2	13.25	石灰、片岩粒を多く含む。 雲母微粒子を少量含む。	明黄茶色/ 明赤茶色	やや良好	不明(摩耗)、ほぼ摩耗一部 ハケ目	不明(摩耗)		
	75	■	器台 (2/3割)	10.5	10.8	13.6	石灰、片岩粒を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	明黄茶色	やや良好	ヨコナデ(摩耗)、ハケ目 (摩耗)	不明(摩耗)		
	76	■	高杯 (口縁部片)	(18)			細砂粒を含む。 磨滅されている。	淡白灰色	やや良好	ヨコナデ、ナデ	ナデ		
	77	■	高杯 (脚部片)		(32)		片岩、石灰、赤色粒子を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ハケ目(摩耗) ヨコナデ	ハケ目		
第6区	78	SK63	甕 (口縁部片)	(28)			石灰及び片岩粒子が多く含む。	黄茶色	やや良好	ヨコナデ	不明(摩耗)		
	79	■	蓋 (つまみ部片)				石灰及び片岩粒を多く含む。	黄茶色	やや良好	不明(摩耗)	不明		
	80	SK64	蓋 (つまみ部片)				片岩粒を少量含む。	黄茶色/蒸灰褐色	やや良好	ナデ	不明		
	81	■	甕 (口縁部片)	(34.5)			片岩、赤色粒子を多く含む。	淡黄茶色/ 淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	不明(摩耗)		
	82	■	甕 (底部片)		5.3		細砂粒を多く含む。 雲母微粒子を少量含む。	黄茶褐色/ 暗灰褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	指押入痕ナデ		
	83	■	甕 (底部片)		5.8		石灰及び片岩粒、少量の角閃石が 混入する。	黄茶褐色/ 蒸灰褐色	やや良好	ハケ目	不明(摩耗)、指圧痕		
	84	SK65	甕 (口縁部片)	(20)			石灰及び片岩粒子を多く含む。	暗茶色/黄茶色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目(摩耗)	ハケ目(摩耗)		
	85	■	小鉢 (ほぼ完整 口縁一部欠損)	10.8		4.8	石灰及び片岩粒を多く含む。 少量の赤色粒子を含む。	黄茶褐色/ 淡黄灰褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)		
	86	SK66	甕 (底部片)		(7.0)		石灰及び片岩粒を多く含む。	明茶褐色	やや良好	ナデ	ハケ目痕ナデ		
	87	SK68	甕 (口縁部破片)				片岩、石灰粒子を多く含む。	黒灰色/淡茶色	やや良好	不明	不明		
	88	SK69	甕 (底部片)		4.9		石灰及び片岩粒を多く含む。	淡黄茶褐色/ 淡灰褐色	やや良好	不明(摩耗)	指圧痕		
	89	SK72	甕 (底部片)		6.4		石灰及び片岩粒を多く含む。	明茶色	やや良好	ハケ目(摩耗)	不明(摩耗)		
	90	■	甕 (底部片)		5.2		石灰及び片岩粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ハケ目、ナデ	ナデ、指押入		
	91	■	器台 (3/4割)	(9.1)	9.8	14.3	石灰、片岩粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ハケ目	ナデ	黒底有り	
	92	■	鉢? (口縁部破片)				片岩、石灰、赤色粒子を多く含む。	黄茶褐色	やや良好	ヘラナデ	ナデ、ヨコナデ		
第7区	93	SK73	甕 (口縁部片)	31.6			片岩粒を少量含む。	暗灰茶褐色/ 蒸灰褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)		
	94	■	甕 (底部片)		5.7		石灰、片岩粒を多く含む。	暗茶褐色	やや良好	ハケ目、ナデ	ナデ		
	95	■	甕 (底部片)		8.7		多量の片岩微粒子及び少量の角閃 石微粒子を含む。	淡黄茶色/ 淡黄灰褐色	やや良好	ハケ目	指押入		
	96	■	甕 (底部片)		9.5		片岩、石灰、赤色粒子を多く含む。	淡黄茶褐色/ 淡黄灰褐色	やや良好	ハケ目	不明(摩耗)		
	97	SK74	甕 (長頸部、胴 部片)				片岩、石灰、赤色粒子を多く含む。	暗灰茶褐色/ 淡黄褐色	やや良好	不明(摩耗)、沈痕、ヘラナデ	不明(摩耗)		
	98	■	甕 (上面片)	(17.1)			石灰、片岩粒を少量含む。	赤茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ヘラナデ(摩耗)	ナデ(摩耗)、不明(摩耗)		
	99	■	甕 (3/5割)	(31.9)	6.4	33.5	石灰及び片岩粒を含む。 赤色粒子を少量含む。	明黄茶色/ 黄赤茶褐色	やや良好	ハケ目	不明(摩耗)		
	100	■	甕 (口縁部片)	(30.2)			石灰、片岩粒を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ヨコハケ目	不明(摩耗)		
	101	■	甕 (口縁部片)	(29)			片岩、石灰粒子を多く含む。	淡黄灰色/淡黄褐色	やや良好	ヨコ、タテハケ目、沈痕	不明(摩耗)		
	102	■	甕 (底部片)		10.8		片岩、石灰微粒子、雲母微粒子を 多く含む。	淡黄茶色/ 淡黄灰色	やや良好	ヘラナデ	ヘラナデ	黒底有り	
第8区	103	■	甕 (底部片)		4.8		片岩、石灰微粒子、角閃石、雲母 微粒子を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)、指圧痕		
	104	■	甕 (底部片)		8.9		石灰及び片岩粒を多く含む。 角閃石を少量含む。	暗黄茶褐色/ 明黄茶褐色	やや良好	ナデ	不明(摩耗)	黒底有り	
	105	■	器台 (脚部片)		9.0		片岩、石灰粒子を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	ハケ目	不明(摩耗)		
	106	■	鉢 (口縁部片)	(30.3)			片岩、石灰粒子を多く含む。	赤褐色/蒸灰褐色	やや良好	煎目、ヘラナデ	ヘラナデ(摩耗)		
	107	■	鉢 (1/5割)	(21.2)			片岩、石灰粒子を多く含む。	淡黄褐色	良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)		
第8区	108	SK77	甕 (口縁部破片)				石灰、片岩粒、雲母微粒子を 多く含む。	淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ	不明(摩耗)		

※ (単位)mm

表1 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土土器観察表 ③

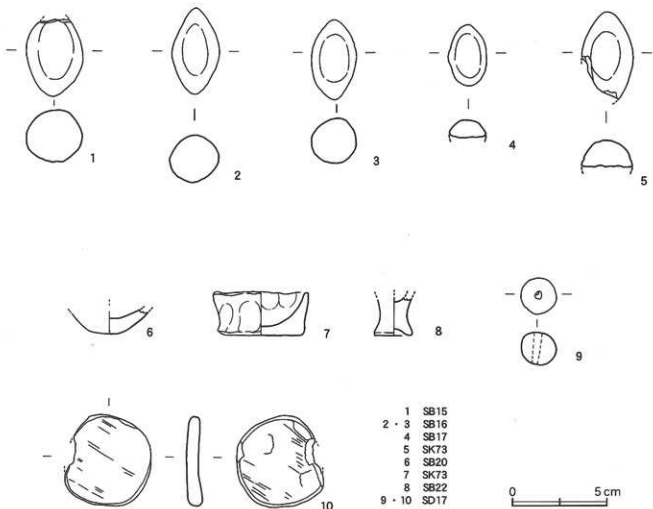
神田 番号	遺物 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第8区	109	SK30	甕 (底面片)		(5.5)		片岩、石英粒子、角閃石微粒子を多く含む。	暗茶色	やや良好	不明 (厚乾)	不明 (厚乾)	
	110	SK31	甕 (口縁部片)	(17)			片岩、石英、角閃石、赤色粒子を多く含む。	茶褐色/黄茶褐色	やや良好	指押え後ナデ	指押え後ナデ	
	111	■	甕 (底面片)		6.8		石英、片岩粒子を多く含む。	黄灰茶色/ 黄灰褐色	良好	ハケ目一部ハケ目後ナデ	ハケ目後ナデ	
	112	■	甕 (底面片)	(5.7)			石英、片岩粒子を多く含む。	暗茶色/茶灰色	やや良好	ハケ目	不明 (厚乾)	
	113	■	甕 (底面片)		8.5		片岩、石英粒子を多く含む。	淡黄茶色/黄茶褐色	やや良好	不明 (厚乾)	ヘラナデ?	
	114	■	甕 (口縁部片)	(32)			片岩、石英粒子を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ハケ目 (厚乾)	ナデ	
	115	■	甕 (口縁部片)	(36)			石英、片岩粒子を多く含む。	黄茶色/黄褐色	良好	ハケ目後ナデ、沈雄	ナデ	
	116	■	甕 (口縁部片)	(36)			片岩、石英粒子を多く含む。	暗灰茶色/ 灰茶褐色	やや良好	指押え、ハケ目	ナデ	
	117	■	甕 (口縁部片)	(18.3)			片岩、石英粒子を多く含む。	暗灰茶色/黄茶色	良好	ハケ目、沈雄	ナデ	黒底有り
	118	■	高杯 (脚部片)		(34)		片岩、石英粒子を多く含む。	黄茶色/黄褐色	良好	ハケ目	ハケ目	黒底有り
	119	SK32	甕 (つまみ部)	つまみ 3.8			片岩粒を少量含む。	暗黄茶褐色	やや不良	不明 (厚乾)	不明 (厚乾)	
第9区	120	SK35	甕 (底面片)		(5.2)		石英粒子、片岩微粒子を多く含む。	丹色/黄茶色	良好	ヘラナデ	不明 (厚乾)	丹色
	121	SK38	甕 (口縁部片)	(16)			片岩粒、及び角閃石、石英の細粒を含む。	黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目	不明 (厚乾)、ハケ目 (厚乾)	
	122	■	甕 (口/5割)	22.3	13.4	21	角閃石、赤色粒子が少量混入し片岩を多く含む。	淡黄茶色/黄褐色	やや良好	ヨコナデ	不明、指押え	黒底有り
	123	■	甕 (口縁部片)	(30)			多量の片岩、角閃石、長石粒子を含む。	淡黄茶褐色/ 淡黄茶色	やや良好	不明 (厚乾)	押え重、不明 (厚乾)	
	124	■	甕 (口縁部片)	(30)			砂粒、角閃石、赤色粒子が多く混入する。	黄茶褐色/ 淡黄褐色	やや良好	ヨコナデ (厚乾)	不明 (厚乾)	
	125	■	甕 (口縁部片)	(21.8)			片岩粒子を少量含む。	丹色/黄茶色	やや良好	不明 (厚乾)	不明 (厚乾)	丹色
	126	■	甕 (口縁部片)	(24.1)			片岩、雲母片岩粒子を多く含む。	暗黄茶褐色/ 淡黄茶色	やや良好	不明 (厚乾)	ヨコハケ目	黒底有り
	127	■	甕 (底面片)		5.6		石英、片岩を多く含む、赤色粒子を少量含む。	黄茶褐色	良好	ハケ目 (厚乾)	不明 (厚乾)	
	128	■	甕 (底面片)		6.5		片岩、長石、角閃石、赤色粒子を多量に含む。	黄茶褐色/ 暗灰茶色	やや良好	ハケ目、ヘラ状工具による磨削、不明	不明 (厚乾)	
	129	■	甕 (脚部)		8.5		片岩粒を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	淡灰茶褐色/ 暗灰茶褐色	やや良好	ハケ目 (厚乾)	不明 (厚乾)	
	130	■	甕 (底面片)	(5.8)			片岩、長石を含む。	淡黄茶色/ 淡黄褐色	やや良好	ハケ目 (厚乾)	不明 (厚乾)	穿孔有り
	131	■	甕 (底面片)		10.3		石英、片岩粒子を多く含む。	淡茶色	やや良好	不明 (厚乾)	不明 (厚乾)	
	132	■	甕 (破片)				石英、片岩粒子を多く含む。	暗灰茶褐色/ 黄茶褐色	やや良好	不明	ナデ、指押え	
	133	■	甕 (口縁部破片)				片岩、赤色粒子、角閃石粒子を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ヨコナデ、叩き	ハケ目 (厚乾)、叩き	
	134	■	甕 (口縁部破片)				2mm大の石英、及び雲母微粒子を多く含む。	淡黄褐色	良好	不明 (厚乾)	不明 (厚乾)	
	135	■	鉢 (口縁部破片)				片岩粒、赤色粒子を多く含む。	暗灰茶色/ 淡黄褐色	良好	ヨコナデ、ヘラミダキ?	不明 (厚乾)	
	136	■	甕 (口縁部破片)				片岩粒を含む。	黄茶褐色/黄褐色	良好	ヨコナデ (厚乾)	不明 (厚乾)	
	137	■	鉢形 (口縁部破片)				片岩、石英、角閃石、赤色粒子を多量に含む。	暗灰茶色/茶灰色	良好	ヨコナデ、ヨコハケ目	ナデ	
	138	■	高杯 (口縁部破片)				細砂粒を多く含む。 片岩、石英の混入する。	赤褐色/黄茶褐色	やや良好	不明	不明	
	139	■	高杯 (脚部片)				細砂粒を少量含む。 磨滅されている。	淡黄茶色/黄茶色	良好	ヘラナデ	ナデ、縦方向の指ナデ	
	140	■	甕 (脚部破片)				片岩、石英、赤色粒子を多く含む。	淡黄茶色/ 黄灰茶色	良好	ハケ目 (厚乾)	指ナデ、ハケ目後ナデ	黒底有り
第10区	141	SD17	袋状口縁甕 (口/5割)	14.4	7.2	32.2	石英、片岩を多く含む。	黄灰茶色	やや良好	不定方向の磨削ハケ目	ハケ目 (厚乾)	黒底有り
	142	■	袋状口縁甕 (ほぼ完全口縁一部欠損)	17.9		32.5	片岩粒子、赤色粒子、雲母微粒子を含む。	淡黄茶褐色	やや良好	ヨコナデ、ハケ目、指目	ヨコナデ、ハケ目	黒底有り
	143	■	甕 (口/5割)	17.3	4.5	26.5	片岩、石英、赤色粒子を多く含む。	淡黄褐色	良好	ヨコナデ、磨削ハケ目	磨削ハケ目、不明 (厚乾)	
	144	■	甕 (口/1/3)	21.4			片岩、石英及び赤色粒子を多く含む。	淡黄茶色	良好	磨削ハケ目、磨削ハケ目ハケ目一部ヨコナデ	磨削ハケ目、磨削ハケ目	

※ (単位mm)

表1 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土土器観察表④

図面 番号	遺物 番号	出土 遺構	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第10図	145	SD17	蓋 (上部片)	16.8			片岩を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	暗茶灰褐色	良好	押圧による直行文、割目による押圧文様。タタキ	ハケ目	底本有り
第11図	146	"	大型甕 (口縁部片)	(60.4)			石炭及び片岩粒子を多く含む。	黄茶色/ 暗黄茶褐色	やや良好	割目、不定方向のハケ目	ハケ目	
第12図	147	"	甕 (3/5強)	(24.8)	25	29.6	片岩粒子を多く含む。	暗黄茶褐色/ 暗茶褐色	良好	不定方向のハケ目	不定方向のハケ目。指押入後ハケ目	黒底有り
"	148	"	甕 (3/5強)	43.6			石炭及び煤母礫粒子を多く含む。	黄茶褐色/ 淡黄灰色	やや良好	指圧痕。叩き後ハケ目一部ナデ	ハケ目(摩耗)	
"	149	"	胴付甕 (3/5強)	(17.4)	12.6	23.5	石炭及び片岩粒子。赤色粒子を多く含む。	淡黄茶褐色	やや不良	不明(摩耗)	不明(摩耗)	
"	150	"	鉢 (3/4弱)	12.3	7.4		石炭及び片岩を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	不明(摩耗)	ナデ、指圧痕	黒底有り
"	151	"	鉢 (1/3強)	11	4.9		片岩、石炭及び赤色粒子を多く含む。	淡黄茶色	やや良好	ハケ目(摩耗)	不明(摩耗)	
"	152	"	小鉢 (ほぼ完形口縁一部欠損)	9.7	4.1		片岩及び赤色粒子を多く含む。	淡赤茶褐色/ 淡茶色	良好	指圧痕	指圧痕後ナデ	黒底有り
"	153	"	深鉢 (完形口縁部一部欠損)	18.6	15.6		片岩、石炭を多く含む。	淡黄茶色/ 淡茶色	やや不良	タタキ	不明。ハケ目	焼成前穿孔
"	154	"	甕 (3/4強)	18.5			片岩、赤色粒子を多く含む。 石炭粒を少量混入する。	淡白黄褐色	やや良好	ハケ目(摩耗)	不定方向のハケ目	黒底有り
第13図	155	"	高杯 (ほぼ完形口縁一部欠損)	40.1	26.8	25.9	片岩、石炭粒を多く含む。	淡黄茶褐色	やや良好	不明(摩耗)	ナデ	黒底有り
"	156	"	高杯 (3/4弱)	18	12.6	12.5	石炭、片岩粒子を多く含む。 夾間石、赤色粒子を少量含む。	淡黄茶色	やや良好	不明(摩耗)	不明(摩耗)	黒底有り
"	157	"	脚台 (3/4強)	14	16.7	21.2	石炭、片岩を多く含む。 夾間石を少量含む。	黄茶灰褐色	良好	タタキ後ハケ目	ハケ目。指ナデ、ハケ目後指押入	黒底有り
"	158	"	脚台 (4/5弱)	18.7	17.4	21.7	石炭及び片岩粒子を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	淡黄茶褐色	やや良好	割目(摩耗)、ハケ目	ハケ目(摩耗)、指ナデ	
"	159	"	支脚 完形品		9.2	8.7	石炭、片岩を多く含む。 夾間石を少量含む。	黄茶褐色	良好	タタキ後ナデ	指ナデ、指押入	
"	160	"	支脚 (3/4弱)		10.6	9.4	石炭、片岩を多く含む。 夾間石を含む。	明黄茶褐色	やや良好	タタキ後ハケ目	指ナデ、指押入	

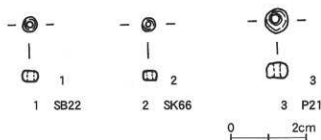
表1 柳遺跡4次 S・B・S・K・S・D 出土土器観察表⑤



第14図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB15~17・20・22)
土壌 (SK73) 溝 (SD17) 出土土製品実測図 [1/2]

採回 番号	遺物 番号	出土 遺構	器 種	長さ (cm)	最大径 (cm)	厚さ (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第14図	1	SB15	投擲 (上部欠損)	4.1	3.0		ほぼ精選されている。	暗茶褐色	やや良好			
"	2	SB16	投擲 (完形品)	4.6	2.6		微砂粒を少量含む。 赤色粒子を少量含む。	暗黒茶褐色	やや良好			
"	3	"	投擲 (完形品)	4.2	2.4	2.4	石英及び片岩粒を多く含む。	黄茶灰褐色	やや良好			
"	4	SB17	投擲 (1/2)	3.2	2.0	0.9	ほぼ精選されている。	黄茶灰褐色	やや良好			
"	5	SK73	投擲 (1/2)	4.4	2.8		細砂粒を少量含む。	暗黒茶褐色	やや良好			
"	6	SB20	ミニチュア土器 (底部)				石英が少量混入する。 ほぼ精選されている。	黄茶灰褐色/ 黄褐色	良好	ナデ	ナデ	
"	7	SK73	手捏土器 (ほぼ完形)	5.0	4.0	2.3	砂粒を多く含む。 角閃石を少量含む。	淡黄灰色/ 淡灰色	やや良好	押圧痕。不明	ナデ	黒底有り
"	8	SB22	ミニチュア土器器台 (底部)	2.0			片岩、赤色粒子を多く含む。	淡黄褐色	やや良好	不明 (摩耗)	不明 (摩耗)	黒底有り
"	9	SD17	土玉	1.9	幅 1.9	1.75		淡黄褐色				
"	10	"	円盤状土製品		4.8	0.8	石英及び片岩粒子を少量含む。	淡黄褐色	やや良好	ハケ目 (摩耗)	ハケ目 (摩耗)	

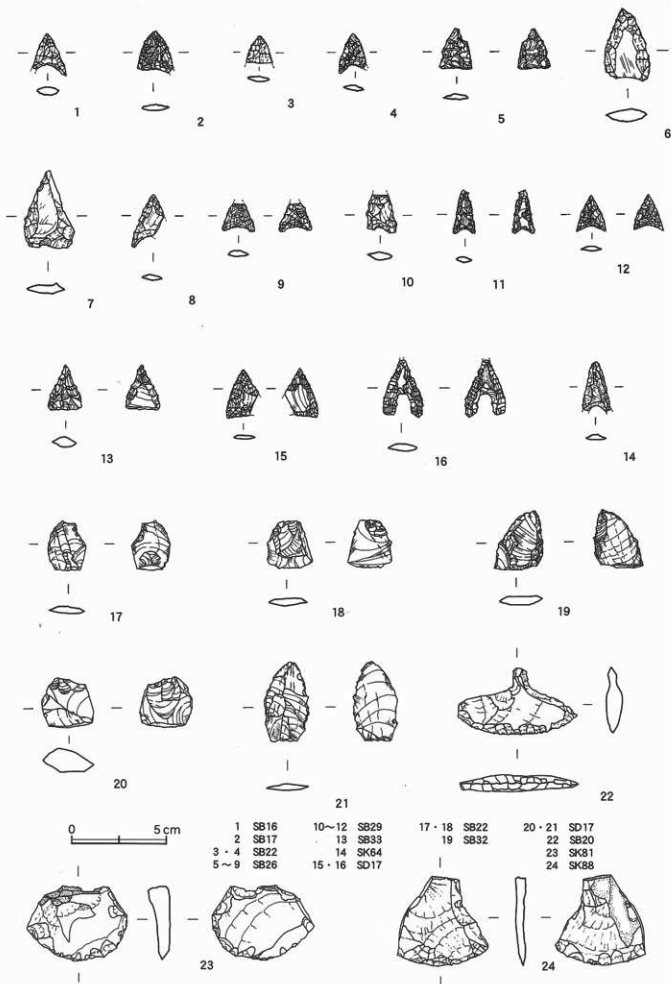
表2 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土土製品観察表



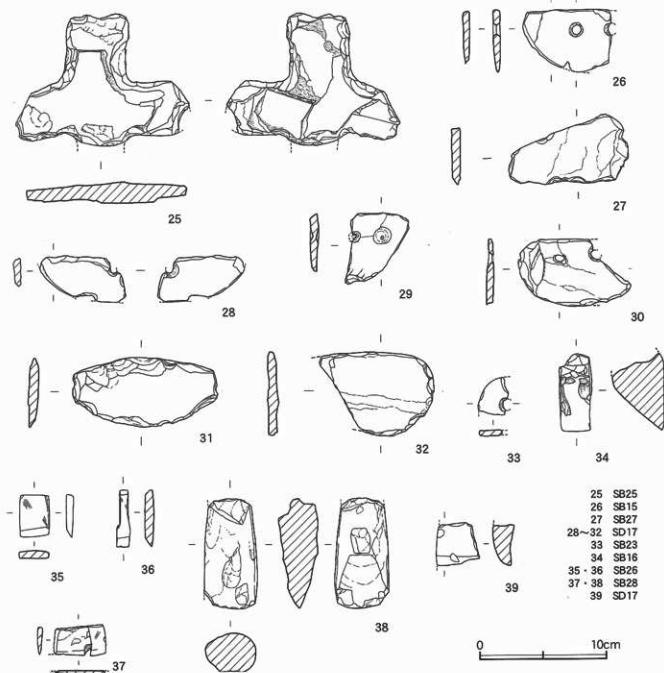
第15図 柳遺跡4次 竪穴住居（SB22）土壇（SK66）
 ビット（P21）出土玉類実測図〔1／1〕

押図 番号	遺物 番号	出土 遺構	器 種	色 調	長さ (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
第15図	1	SB22	ガラス玉	コバルトブルー	0.4	0.2	0.3		
"	2	SK66	ガラス玉	コバルトブルー	0.35	0.2	0.3		
"	3	P21	ガラス玉	濃いブルー	0.6	0.25	0.4		

表3 柳遺跡4次 SB・SK・ビット 出土玉類観察表

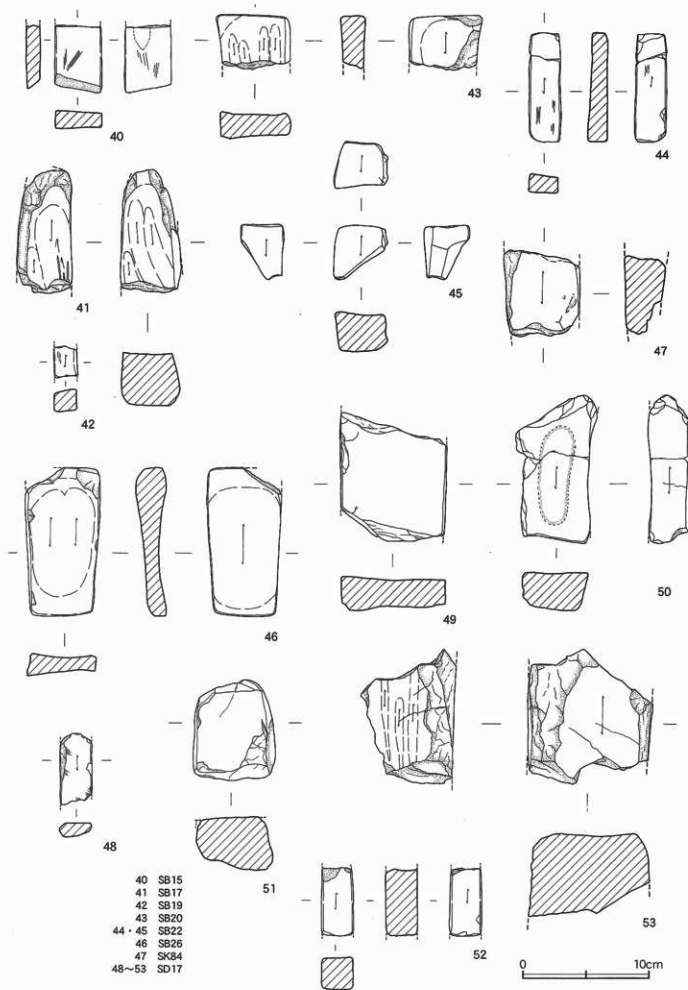


第16図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB16~17・22・26・29・33)
土壌 (SK81・88) 溝 (SD17) 出土石製品実測図 [1/2]

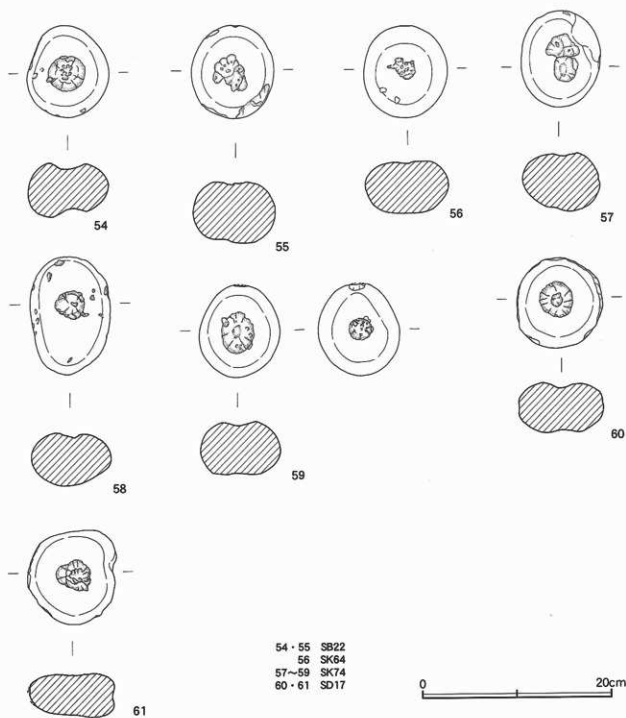


- 25 SB25
- 26 SB15
- 27 SB27
- 28~32 SD17
- 33 SB23
- 34 SB16
- 35・36 SB26
- 37・38 SB28
- 39 SD17

第17図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB15・16・20・22~23・26・28)
溝 (SD17) 出土石製品実測図 [1/3]



第18図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB15・17・19・20・22・26)
土壇 (SK84) 溝 (SD17) 出土石製品実測図 (1/3)



第19図 柳遺跡4次 竪穴住居 (SB22) 土壇 (SK64・74)
溝 (SD17) 出土石製品実測図 [1/4]

押印番号	遺物番号	出土遺構	器 種	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
第16図	1	SB16	石鏃	サヌカイト	2.2	1.6	0.4	1.1	
※	2	SB17	石鏃	黒曜石	2.25	1.9	0.3	1.2	
※	3	SB22	石鏃	サヌカイト	1.4	1.4	0.3	0.5	
※	4	※	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.35	0.7	
※	5	SB26	石鏃	黒曜石	2.1	1.5	0.3	1.6	
※	6	※	石鏃	サヌカイト	3.5	2.4	0.6	4.7	
※	7	※	石鏃	サヌカイト	3.9	2.6	0.45	1.0	
※	8	※	石鏃	サヌカイト	2.75	1.7	0.3	5.6	
※	9	※	石鏃	黒曜石	1.4	1.6	0.3	0.6	
※	10	SB29	石鏃	サヌカイト	2	1.5	0.4	1.4	
※	11	※	石鏃	黒曜石	2.25	1.05	0.3	0.7	
※	12	※	石鏃	黒曜石	1.8	1.4	0.25	0.6	
※	13	SB33	石鏃	黒曜石	2.3	1.7	0.5	1.8	
※	14	SK64	石鏃	サヌカイト	2.6	1.55	0.4	1.1	
※	15	SD17	石鏃	黒曜石	2.4	1.5	0.2	0.9	
※	16	※	石鏃	黒曜石	3.0	2.0	0.4	1.6	
※	17	SB22	石製品	黒曜石	2.6	2.0	0.35	2.3	
※	18	※	石製品	黒曜石	2.4	2.1	0.4	2.2	
※	19	SB32	石製品	黒曜石	2.3	2.3	0.45	3.8	
※	20	SD17	石製品	黒曜石	2.5	2.7	1.3	8.8	
※	21	※	石製品	黒曜石	4.0	2.3	0.35	3.8	
※	22	SB20	石匙	サヌカイト	3.4	6.25	0.9	14.4	
※	23	SK81	スクレイパー	サヌカイト	3.8	5.2	1.0	19.5	
※	24	SK88	スクレイパー	サヌカイト	4.65	4.08	0.55	13.8	
第17図	25	SB22	十字形石器	粘板岩	10.4	13.2	1.65	240	
※	26	SB15	石包丁 (片刃)	片岩	4.95	7.15	5.5	31	
※	27	SB20	石包丁	片岩	5.2	9.2	7.0	53.7	
※	28	SD17	石包丁	片岩	6.3	3.4	0.6	20.5	
※	29	※	石包丁 (未製品)	片岩	5.55	4.6	0.7	21.3	
※	30	※	石包丁	片岩	5.3	8.9	0.5	35.1	
※	31	※	石包丁	片岩	5.4	11.4	0.75	79.2	
※	32	※	石包丁	片岩	6.5	8.5	0.9	72.5	
※	33	SB23	紡錘車	緑泥片岩	2.9	2.1	0.45	2.1	
※	34	SB16	柱状片刃石斧	粘板岩	6.1	2.6	4.2	96.4	
※	35	SB26	扁平片刃石斧	細砂岩	3.3	2.4	0.6	10.5	
※	36	※	扁平片刃石斧	細砂岩	4.5	1.1	0.7	5.7	

表4 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土石製品観察表①

押図番号	遺物番号	出土遺構	器 種	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備 考
第17図	37	SB28	片刃石斧	片岩	2.35	4.1	0.4	6.3	
#	38	#	鉋刃石斧	安山岩	8.5	4.1	3.1	160	
#	39	SD17	片刃石斧	粘板岩	3.2	3.2	1.7	21.3	
第18図	40	SB15	礫石	細砂岩	5.0	3.7	1.4	52.2	
#	41	SB17	礫石	砂岩	9.6	4.8	4.1	230	
#	42	SB19	礫石	砂岩	2.4	1.8	1.7	11.1	
#	43	SB20	礫石	砂岩	4.3	5.7	1.9	75	
#	44	SB22	礫石	砂岩	8.6	2.5	1.6	60	
#	45	#	礫石	砂岩	4.1	4.2	3.0	60	
#	46	SB26	礫石	砂岩	11.7	5.8	2.4	200	
#	47	SK84	礫石	砂岩	6.7	5.9	3.3	160	
#	48	SD17	礫石	砂岩	5.3	2.6	1.1	24.1	
#	49	#	礫石	雲母片岩	9.1	8.4	2.7	320	
#	50	#	礫石	砂岩	11.6	6.2	3	280	
#	51	#	礫石	片岩	7.8	6.5	4.2	255	
#	52	#	礫石	砂岩	5.3	2.5	2.5	68.3	
#	53	#	礫石	砂岩	10.1	9.9	6.2	790	
第19図	54	SB22	くぼみ石	安山岩	9.5	8.5	5.6	610	
#	55	#	くぼみ石	安山岩	9.6	8.7	6.4	750	
#	56	SK64	くぼみ石	安山岩	9.6	8.8	5.3	630	
#	57	SK74	くぼみ石	安山岩	9.9	8.2	5.9	700	
#	58	#	くぼみ石	安山岩	12.3	8.4	5.4	740	
#	59	#	くぼみ石	安山岩	9.6	8.4	5.5	670	
#	60	SD17	くぼみ石	安山岩	9.5	9.0	5.2	670	
#	61	#	くぼみ石	安山岩	9.6	9.1	4.5	610	

表4 柳遺跡4次 SB・SK・SD 出土石製品観察表②

平成22年度調査

(1) 船底遺跡(3次調査)

① 発掘調査の概要

本遺跡は、八女市納楚字船底に所在し、平成20年度に発掘調査を実施した船底遺跡(1次調査)と平成21年度に発掘調査を実施した船底遺跡(2次調査)の間に位置する。本遺跡の北側と東側には用水のための水路が流れており、発掘調査以前は倉庫の通路として利用されていた。今回の発掘調査では、1m以上の盛土の下から水田の耕作土が確認されており遺構面は、その直下から検出された。標高は、3.5m前後である。

発掘調査の結果、弥生時代を中心とした遺構が見つかり、竪穴住居2軒、土壇7基、旧河川1条、不明遺構1基が確認された。

② 遺構と遺物

竪穴住居(SB)

SB01(第22・26～30図・図版3)

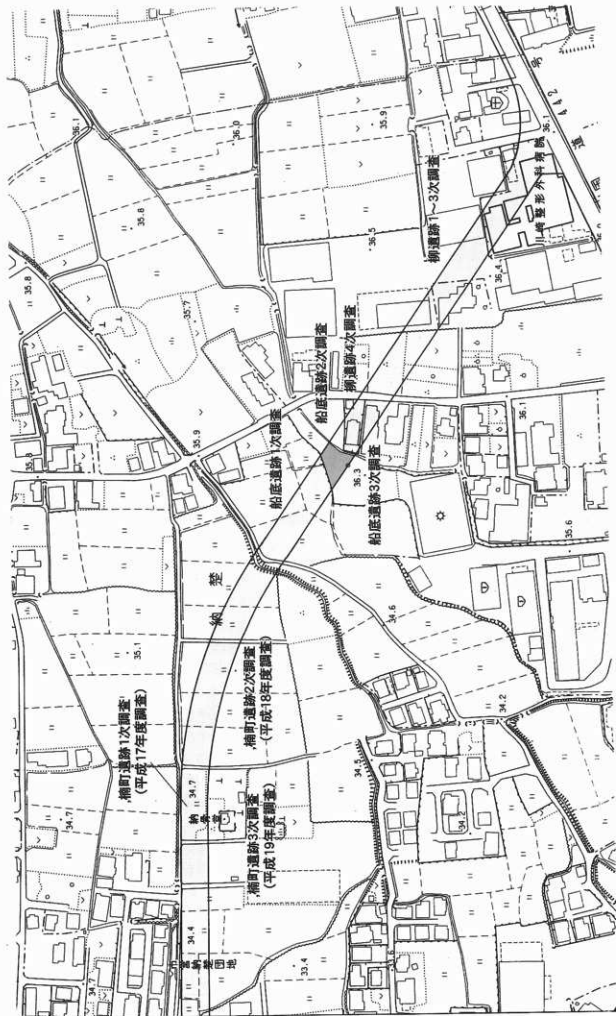
調査区の東端から検出された。東側はSB02と切り合っている。南北の長さは不明で、東西の長さは約4mである。検出面から床面まで1.3cm前後である。2本の柱穴が見られ、柱穴の間には焼土が確認された。柱穴跡は隅丸長方形で、外側に深い掘り込みが見られた。また北側の柱穴(P02)上には弥生式土器の壺がつぶれた状態で検出された。

主な出土遺物は、土器は弥生式土器の壺や甕が出土している。1～5は壺で、大きく外反する口縁部をもつ。1は、口縁部側面に斜め方向のキザミが連続しており、頸部には竹管紋が連続している。2は頸部に刺突紋が連続する。3は口縁部が1、2と比べて若干短い。4はやや小ぶりで、頸部に工具による押圧痕がある。5は球形の胴部に直立に近い角度で直線的に立ち上がる口縁部をもつ。6は鋤先口縁の甕で口縁部上縁はやや内傾し、端部が跳ね上がる。7は長胴となる胴部をもつ甕で、口縁部はく字形に屈曲する。胴部はタタキ調整で外面にタタキ痕を顕著に残し、口縁部の内外面はハケ目による調整である。8・9は球形に近い胴部に直立に近い短い口縁部がつく。10は甕の底部で外面タタキ痕があり、底部は平底である。11は台付甕の脚部で、台脚が短く外反する。12は、大型の甕で口径が59.5cm、器高が87.5cmである。口縁部にキザミを連続させ、頸部に断面三角形の突帯を巡らせる。胴部上面は、断面逆台形形の突帯を巡らせ、く字形にキザミを連続させる。下方にはコの字形の突帯を巡らせる。13～16は鉢である。17は高坏の坏部である。18は器台の脚部である。19と20は土師器で、SB01の東側の土壇から出土している。いずれも高坏で、19は屈曲部で明瞭な段を持ち上半部が直線的に開く。20は半球型の坏部をもつ。土製品では1が紡錘車で1/2が欠損しているため規格が不明であるが、厚みは0.9cmである。2は投弾で残存長が3.3cm、中心の直径が2.4cmである。石器では黒曜石製の石製品が出土している。

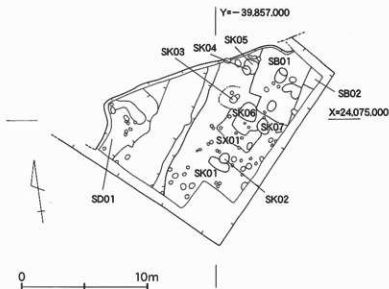
SB02(第22・28図・図版3)

SB01の東側で一部が検出されており、調査区外であるため規模については不明である。検出面から床面までは1.4cmであった。

主な出土遺物は、土器は、弥生式土器の壺と土師器の鉢が出土している。21は壺の口縁部で、大きく外反する口縁部をもつ。22は小型の鉢で、口縁部がやや内湾する。底部は欠損する。石器では2の黒曜石製の石鏃が出土している。



第20図 一般国道442号八女筑後バイパス 船底遺跡(3次調査)調査位置図(1/2,500)



第21図 船底遺跡3次 遺構配置図〔1/300〕

土壇（SK）

SK01（第23図・図版4）

調査区南側で見つかり、北側はSK02に切られる。平面プランは隅丸長方形で長軸は175cm、短軸は80cmである。深さは10cm前後で、緩やかに立ち上がる。中心よりやや東側に直径60cm、深さ50cmのピットがある。

埋土は、1層目が暗茶褐色土で2層目が灰色土混入する茶褐色土である。ピット内の埋土は1層目が土器少量混入する茶褐色土で、2層目が茶褐色土、3層目が地山が少量混入する暗茶褐色土である。

出土遺物は、弥生式土器の細片が少量出土している。

SK02（第23図・図版4）

SK01の北側に位置する。平面プランは、円形で径が80cm前後である。深さは0.5cmで、緩やかに立ち上がる。埋土は暗茶褐色土である。

出土遺物は無く、時期は不明である。

SK03（第23図・図版4・5）

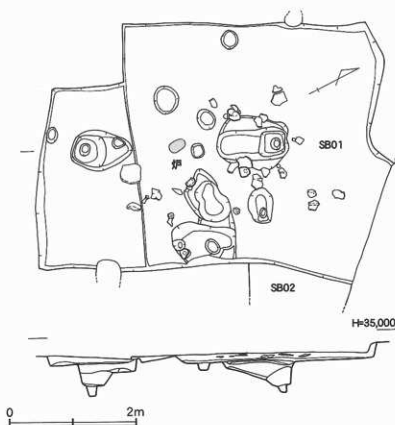
調査区北側に位置する。平面プランは、隅丸方形で1辺が55cm前後である。深さは約15cmで、立ち上がりは直角に近い。埋土は、1層目が灰色土、2層目が茶灰色土、3層目が暗茶灰色土である。

出土遺物は無く、時期は不明である。

SK04（第23図・図版4・5）

調査区北東に位置し、SK05を切る。平面プランは隅丸長方形で、長軸73cm、短軸60cmで、深さは25cmである。中央に直径22cmのピットがある。埋土は、1層目が暗茶褐色土、2層目が地山ブロック混入する茶褐色土、3層目が茶褐色土である。

出土遺物は無く、時期は不明である。



第22図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01) 実測図 (1/60)

SK05 (第23・28図・図版4)

調査区北東に位置し、東側をSB01に切られ、南側をSK04に切られており平面プランは不明である。
出土遺物は、弥生式土器が見つかっており、23は甕の底部と思われる。

SK06 (第23図・図版4)

調査区東側に位置する。径が130cm前後の円形に近い楕円形である。深さは0.5cmで残りが悪い。
出土遺物は無く、時期は不明である。

SK07 (第23・28図・図版4・5)

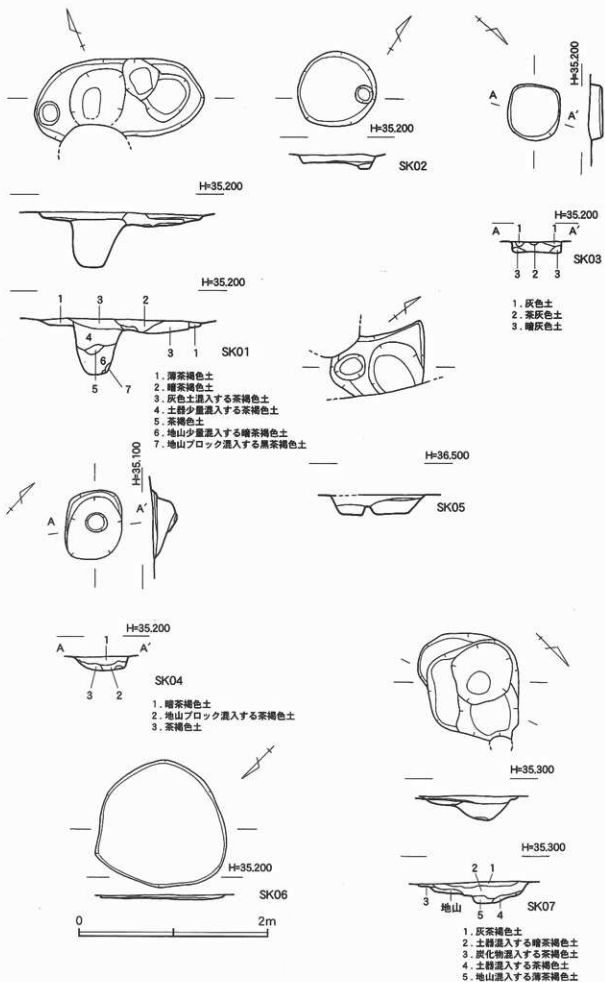
調査区の東側に位置する。1辺が11cm前後の隅丸方形で西側に幅60cm、深さ15cmのピットを有する。埋土は1層目が灰茶褐色土、2層目が土器混入する暗茶褐色土、3層目が炭化物混入する茶褐色土で、ピットの埋土は地山混入する薄茶褐色土である。

出土遺物は、弥生式土器が見つかっており、24は甕先口縁の甕である。

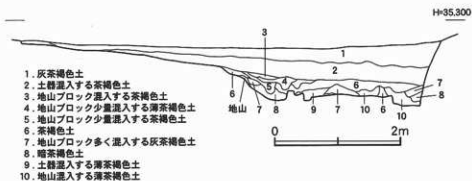
旧河川跡 (SD)

SD01 (第24・28・30～32・図版6)

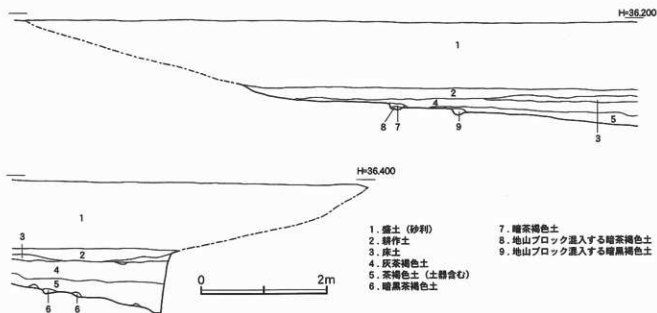
調査区の西側で発見されており、調査区域の半分近くの面積を占める。断面は、東端から約3mの位置までが平坦で、途中から急激に落ち込んでいる。最深の床面は、凹凸があり、数条の溝状のくぼみが見られた。通常の深さは80cmで、もっとも深いところは1m近くあった。埋土は、1層目が灰茶褐色土、2層目は土器が混入する茶褐色土である。



第23図 船底遺跡3次 土壌 (SK01~07) 実測図 [1/40]



第24図 船底遺跡3次 溝 (SD01) 土層実測図 (1/60)



第25図 船底遺跡3次 南側壁土層実測図 (1/60)

平成20年度に発掘調査が実施された船底遺跡1次調査で見つかった旧河川の続きと考えられ、本遺跡はその東側の岸と思われる。

出土遺物は、土器は弥生式土器の壺や甕、蓋、須恵器の坏、瓦器などが出土している。25は、壺の口縁部で、複合口縁壺である。26は壺の底部で底径が7cmの平底である。27は甕で鋤先口縁である。28と29は甕の底部で、28は上げ底で、29は平坦である。30と31は蓋で30は天井が薄く、31はやや厚い。32は須恵器の坏で高台が付いている。33は瓦器である。石器は、石鏃、石包丁、敲石などが出土している。3と4は石鏃で、3はサヌカイト製で、4は黒曜石製で未完成品である。7は片岩製の磨製石鏃である。8と9は石包丁で、8は片岩製で約0.5cmの穿孔が見られる。9は輝緑凝灰岩製である。10と11は敲石である。

不明遺構（SX）

SX01（第28図・図版6）

調査区東側で検出された。北側は攪乱等のため確認できなかったが、プランは方形の溝状となっており1辺が約3mである。溝は幅が70cmから110cmで、深さは約3cmと残りが悪い。埋土は薄茶褐色土が1層だけ確認できた。

出土遺物は、弥生式土器の甕が出土している。34と35はともに甕の口縁部である。

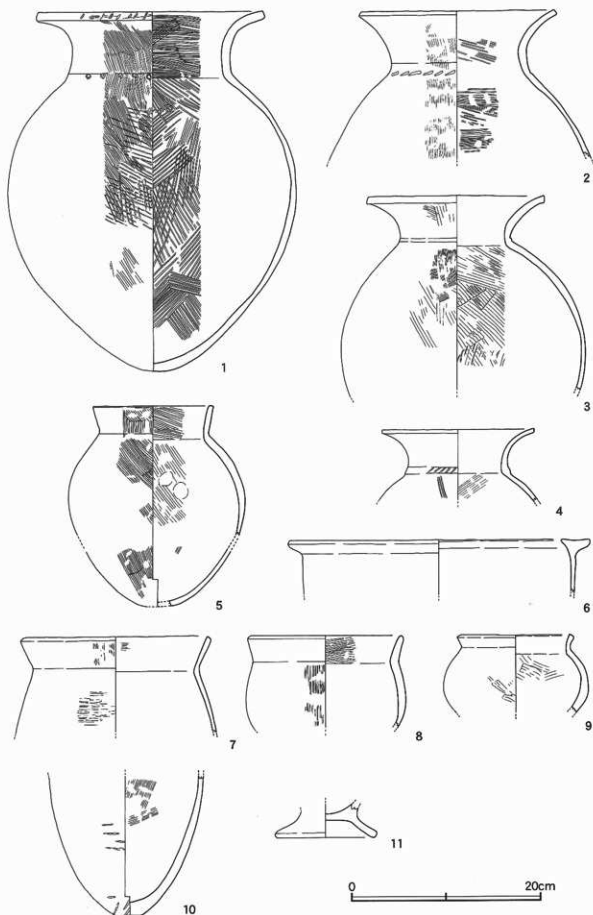
③ まとめ

今回の発掘調査により、本遺跡で検出されたSD01は出土遺物などから本遺跡北西側に隣接する船底遺跡（1次調査）で見つかった旧河川跡（SD01）と同様の遺構であることがわかった。SD01の上層から15cm～20cmの灰茶褐色土の整地面が見つかり、須恵器や瓦器が出土している。整地面の下からは弥生時代中期～後期の土器が出土しており、表面の摩耗が著しい。

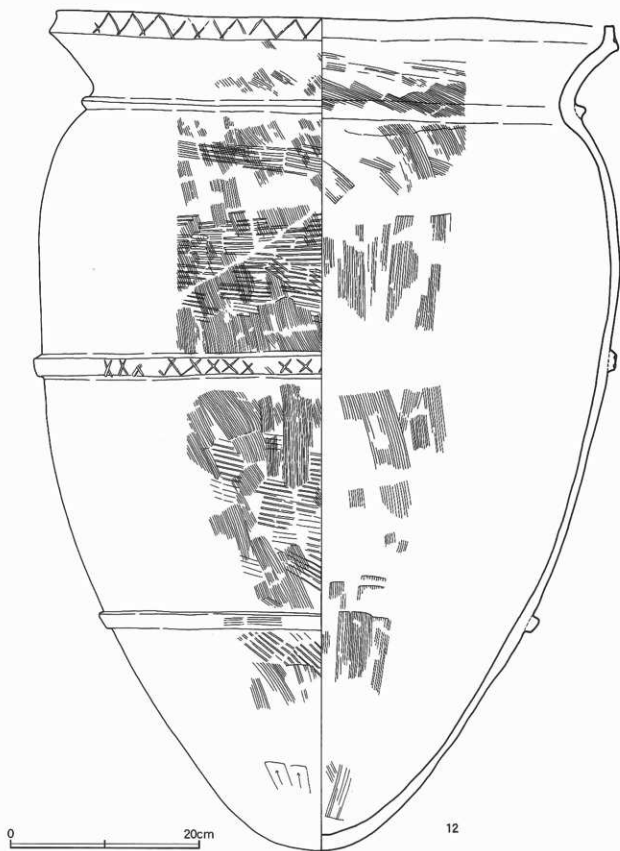
また、調査区北東部では弥生時代後期から竪穴住居が見つかり、終末期の船底遺跡（2次調査）の集落の続きと考えられる。

土壌は7基確認されているが、出土遺物が少なく時期の確定には至らなかった。切り合いが確認されており、時期差があるものと思われる。最後に不明遺構であるが、弥生式土器が出土しており、SB01より古いと考えられる。

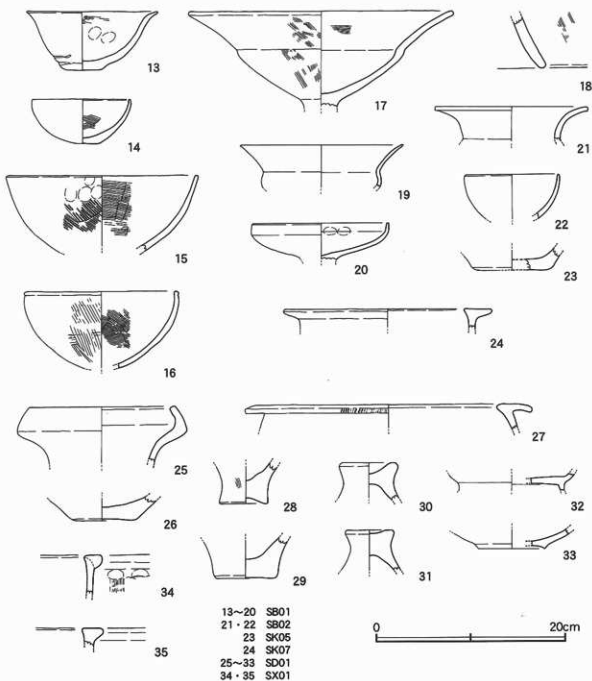
調査区の西側は調査区域外となっており、発掘調査は実施していないが、旧河川の続きが予想され、本遺跡の竪穴住居は、東側に広がる柳遺跡・船底遺跡（2次調査）の集落の端部に位置するものと思われる。



第26図 船底遺跡3次 竪穴住居(SB01)出土土器実測図〔1/4〕



第27圖 船底遺跡3次 竪穴住居（S B 0 1）出土土器実測圖〔1／4〕

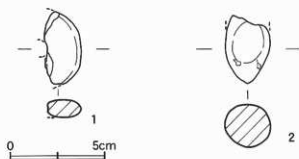


第28図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01・02) 土壌 (SK05・07)
 溝 (SD01) 不明遺構 (SX01) 出土土器実測図 [1/4]

探洞 番号	遺物 番号	出土 遺物	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色 調	焼成	調 整		備 考
										外 面	内 面	
第26回	1	SB01	壺	23.6		37.4	片岩、雲母片岩を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	(外) 黄赤茶褐色 (内) 黄赤茶褐色	良好	叩き破割ハケ目。	粗いハケ目。	頸部に竹管状
	2	■	壺 (3/5割)	20.7			片岩細砂粒と赤色粒子を少量含む。	(外) 黄赤灰色 (内) 黄赤灰色	やや良好	ハケ目。(ほぼ摩耗)	ハケ目。(やや摩耗)	頸部に刺状
	3	■	壺 (上部片)	18.5			片岩、石英粒を多く含む。 内周石を少量含む。	(外) 黄赤茶色 (内) 黄赤茶色	やや良好	目が粗いハケ目後、細かい ハケ目にて調整。	斜め方向の目が粗いハケ目。	黒縁あり。
	4	■	壺 (口縁部片)	(16.0)			片岩、赤色粒子を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	ハケ目	頸部に 押圧痕あり。
	5	■	壺 (3/5割)	12.6			片岩粒子を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ハケ目後ナシ。	ハケ目。	黒縁あり。
	6	■	甕 (口縁部片)	31.8			片岩粒子を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	
	7	■	甕 (口縁部片)	(20.0)			片岩、石灰、赤色粒を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	横方向の叩き。	摩耗のため不明。	
	8	■	甕 (口縁部片)	(12.0)			片岩砂粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	縦方向のハケ目。	ナシ。	
	9	■	甕 (口縁部片)	(16.4)			片岩、石灰砂粒を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	
	10	■	甕 (下部片)		2.9		片岩砂粒を多く含む。 内周石を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	叩き後ナシ。	ハケ目。	
	11	■	甕 (側面片)		10.7		片岩、石灰粒を多く含む。 内周石を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。		
第27回	12	■	大形甕	59.5		87.5	石灰、片岩砂粒を含む。 4mm～8mm次の砂粒を少量含む。	黄赤茶色	良好	叩き後、刷毛目。	縦方向の刷毛目。	黒縁あり。
第28回	13	■	鉢 (3/5割)	(13.7)	(4.5)	6.1	片岩、石英粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	ナシ。	
	14	■	鉢 (3/4割)	10.3		4.5	片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	不定方向のハケ目。	一部黒縁あり。
	15	■	鉢 (口縁部片)	(20.2)			片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ハケ目。	ハケ目。	
	16	■	鉢 (1/3割)	(16.2)			片岩、石英粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ハケ目。	ハケ目。	黒縁あり。
	17	■	高杯 (片部片)	(28.0)			片岩粒を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや不良	ハケ目。	ハケ目。	
	18	■	盃合 (底部破片)				ほぼ磨滅されている。	(外) 黄赤色 (内) 黄赤色	やや良好	ハケ目。	摩耗のため不明。	
	19	SB02	土師器高杯 (杯部片)	(17.0)			ほぼ磨滅されている。	(外) 明赤茶色 (内) 明赤茶色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	
	20	■	土師器高杯 (杯部)	14.2			ほぼ磨滅されている。	(外) 明赤茶褐色 (内) 明赤茶褐色	やや良好	摩耗のため不明。	ナシ。	
	21	SK05	壺 (口縁部破片)	(16.0)			片岩粒を含む。	(外) 黄赤色 (内) 黄赤色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	口縁部にキズミ
	22	SK07	土師器鉢 (口縁部)	(10.0)			片岩粒を少量含む。 ほぼ磨滅されている。	(外) 明赤茶色 (内) 明赤茶色	やや良好	ナシ。	ナシ。	
	23	SD01	甕 (底部破片)		(8.4)		片岩、石英粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ナシ。	ナシ。	
第29回	24	■	甕 (口縁部破片)	(22.0)			片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	
	25	■	甕 (口縁部破片)	(15.4)			片岩、石灰粒を多く含む。 赤色粒子を少量含む。	(外) 黄赤茶褐色 (内) 黄赤茶褐色	やや良好	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	
	26	■	甕 (底部片)		(7.0)		片岩粒を多く含む。 内周石を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ナシ	ナシ	
	27	■	甕 (口縁部片)	(30.2)			片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	ナシ	摩耗のため不明	
	28	■	甕 (底部片)		(5.1)		片岩粒を少量含む。	(外) 明赤茶色 (内) 明赤茶色	やや良好	摩耗のため不明	ハケ目後ナシ	
	29	■	甕 (底部片)		(6.2)		片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤茶褐色 (内) 黄赤茶褐色	やや良好	摩耗のため不明	摩耗のため不明	
	30	■	蓋 (つまみ部)	つまみ径 (6.2)			片岩粒を多く含む。	(外) 黄赤茶褐色 (内) 黄赤茶褐色	やや良好	摩耗のため不明	指押入	
	31	■	蓋 (つまみ部)	つまみ径 5.1			片岩粒を少量含む。	(外) 黄赤茶色 (内) 黄赤茶色	やや良好	摩耗のため不明	摩耗のため不明	
	32	■	須恵器杯 (高台部片)				片岩、石灰の細砂粒を少量含む。 磨滅されている。	(外) 黄赤灰色 (内) 黄赤灰色	良好	不明	不明	
	33	■	瓦器杯 (底部破片)		(7.0)		磨滅されている。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	断面へう割り。底部：不明	指押入後ナシ	
	34	SX01	甕 (口縁部破片)				片岩粒を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	指圧痕。目撃ナシ。	横ナシ。	
	35	■	甕 (口縁部破片)				片岩粒を少量含む。	(外) 黄赤褐色 (内) 黄赤褐色	やや良好	横ナシ。底部：目撃へう割り	不明。	

※ (微元)

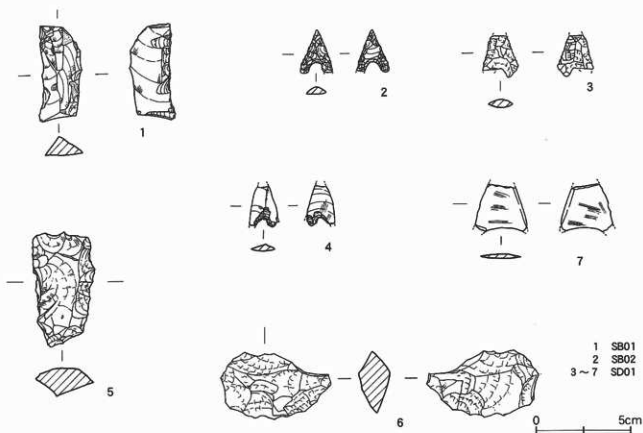
表5 船底遺跡3次 SB・SK・SD・SX 出土土器観察表



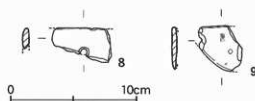
第29図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01)
出土土製品実測図〔1/2〕

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	器種	長さ (cm)	最大径 (cm)	厚さ (cm)	胎土	色調	焼成	備考
第29図	1	SB01	紡錘車(残存1/2)		1.8	0.9	ほぼ精選されている	暗茶褐色	やや良好	
"	2	"	投弾(上部欠損)	3.3	2.4	2.2	ほぼ精選されている	黄茶褐色	やや良好	

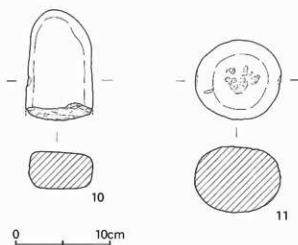
表6 船底遺跡3次 SB 出土土製品観察表



第30図 船底遺跡3次 竪穴住居 (SB01・02) 溝 (SD01) 出土土製品実測図〔1/2〕



第31図 船底遺跡3次 溝 (SD01)
出土石製品実測図 [1/3]



第32図 船底遺跡3次 溝 (SD01)
出土石製品実測図 [1/4]

挿図 番号	遺物 番号	出土 遺構	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第30図	1	SB01	石製品	黒曜石	4.9	2.0	1.0	12.6	
"	2	SB02	打製石鏃	黒曜石	2.3	1.7	0.3	0.8	
"	3	SD01	打製石鏃	サヌカイト	2.2	1.8	0.4	1.2	
"	4	"	打製石鏃 (剥片)	黒曜石	2.2	1.3	0.4	0.9	
"	5	"	石製品	サヌカイト	5.9	3.2	1.4	31.7	
"	6	"	石製品	サヌカイト	3.5	5.8	1.6	29.9	
"	7	"	磨製石鏃	片岩	2.3	2.5	0.25	2.2	
第31図	8	"	石包丁	片岩	4.7	2.7	0.5	9.8	
"	9	"	石包丁	輝緑凝灰岩	3.5	3.5	0.45	7.1	
第32図	10	"	敲石	安山岩	11.7	7.1	3.9	530	
"	11	"	敲石	安山岩	8.4	9.0	6.9	730	

表7 船底遺跡3次 SB・SD 出土石製品観察表

(2) 八反畑遺跡

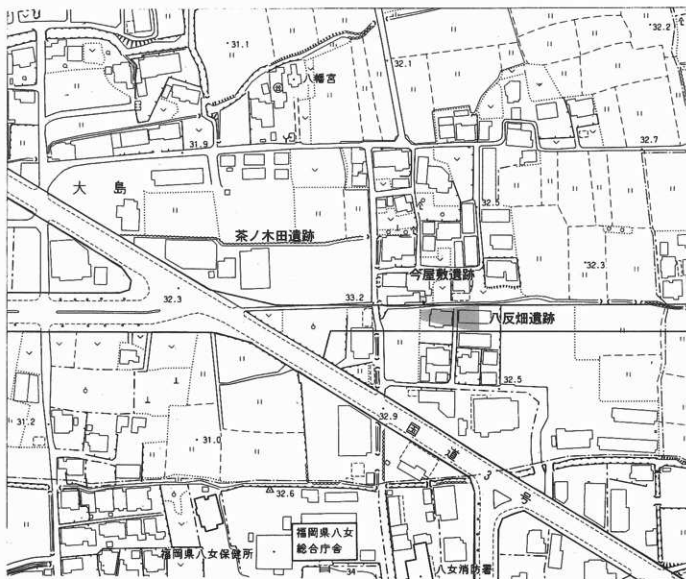
① 発掘調査の概要

八反畑遺跡は、八女市大島字八反畑に所在する。本遺跡は、平成20年度に発掘調査を実施した今屋敷遺跡の南東側に位置し、北側には用水路が東西方向に流れている。発掘調査以前は、調査区域の東側にはアパートが、西側には民家が建っていた。

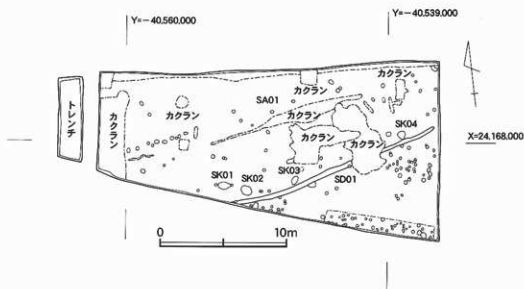
発掘調査の結果、住居建設に伴う攪乱が多かったが盛土の下から柵列、土壇、溝、ピットが発見された。

② 遺構と遺物

今回発見された遺構は、柵列1基、土壇4基、溝1条、ピットである。遺物は出土していない。



第33図 一般国道442号八女筑後バイパス 八反畑遺跡 調査位置図〔1/2, 500〕



第34図 八反畑遺跡 遺構配置図 (1/300)

柵列 (SA)

SA01 (第35図・図版9)

調査区のほぼ中央で検出され、全長約4.9mで南北方向に連なる。4個のピットが確認されており、柱間は120cm前後である。各直径20cm前後で、深さは5cmから15cmである。北側のピットが一番残りがよい。出土遺物が無いため時期については不明である。

土壇 (SK)

発掘調査では、4基の土壇が発見された。

SK01 (第36図・図版9・11)

調査区南側で検出された。平面プランは、東西方向に長い楕円形である。規模は、東側がピットに切られており不明である。残存する長さは18cmである。幅は12cmで、深さは5cmと浅く北側に深さ15cmのピットがある。出土遺物は無く、時期については不明である。

SK02 (第36図・図版9・11)

調査区南側で検出されており、SK01の東側に位置し、SD01の北側に隣接する。平面プランは、東西方向に長い隅丸長方形と思われる。規模は長さ94cm、幅70cm、深さ10cmで緩やかに立ち上がる。出土遺物は無く、時期については不明である。

SK03 (第36図・図版10・12)

調査区南側で検出されており、SD01の北側に隣接する。平面プランは、北東-南西方向に長い楕円形である。規模は長さが75cm、幅が50cmで、深さは5cmと残りが悪く、緩やかに立ち上がる。出土遺物は無く、時期については不明である。

SK04 (第36図・図版10・12)

調査区南側で検出されており、SD01の北側に隣接する。平面プランは、隅丸方形で一辺が65cmである。深さは、30cmで西側に直径25cmのピットを有する。立ち上がりは直角に近い。出土遺物は無く、時期については不明である。

溝 (SD)

SD01 (図版10・12)

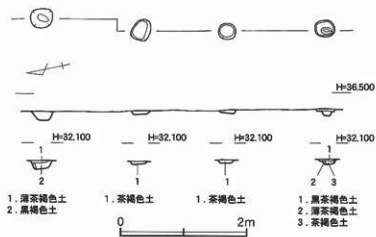
調査区南東部で検出されており、北東から南西に延びる。東側は切れており、西側は調査区外となっていて全容は不明であるが直線に近い。深さは5cm前後で、東側から西側にかけて緩やかに傾斜している。幅は50cm前後である。断面はコの字型で、埋土は黒色ブロック混入する灰茶褐色土である。盛土の下から地山に切り込んでおり、アパート建設以前の遺構と考えられる。出土遺物は無く、時期は不明である。

③ まとめ

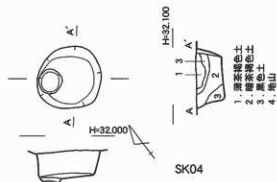
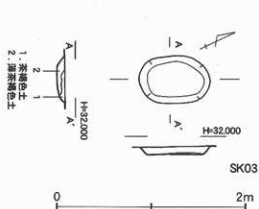
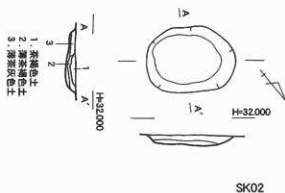
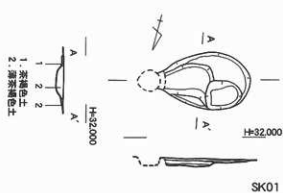
今回の発掘調査では、地表面から約50cm掘り下げを行ったところで遺構が確認された。限られた狭い範囲であり遺物も表採や攪乱からのもので、遺構の性格や時期の確定には至らなかった。調査区北側は東西に用水路が流れており、その設置のため幅約60cmの掘方が確認されており、また調査区内はアパートや住宅の設備の痕跡として攪乱が見受けられた。また、調査区西側には北東から南西に連続して続くピットが検出され、道路状遺構の可能性も考えられたが、埋土が灰色土で比較的新しく、掘り下げは実施しなかった。

この周辺の遺跡は、本遺跡の北西50mのところに平成19年度に発掘調査が実施された茶ノ木田遺跡があり、北から南に流れる近世の溝2条、畦畔1条、ピットが見つかった。また、本遺跡の北西には平成20年度に発掘調査が実施された今屋敷遺跡があり、土壇3基、溝3条、井戸2基が見つかった。出土遺物は少なく、平安時代以降の遺物や近世の陶磁器が出土している。

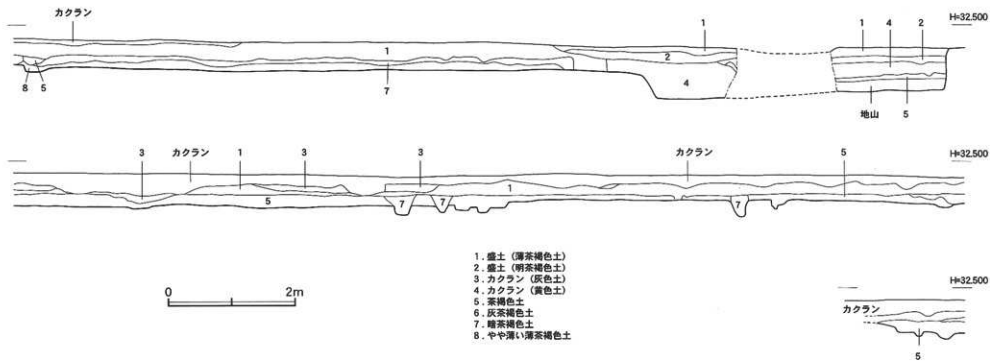
今回の発掘調査では、遺構からの遺物は全く出土しておらず、時期の確認が出来なかった。調査区東側からわずかに表採として歴史時代の土師器の細片が数点見つかり、本遺跡の東側周辺に遺跡が存在した可能性が考えられる。



第35圖 八反畑遺跡 柵列 (SA 0 1) 実測図 [1/60]



第36圖 八反畑遺跡 土坑 (SK 0 1 ~ 0 4) 実測図 [1/40]

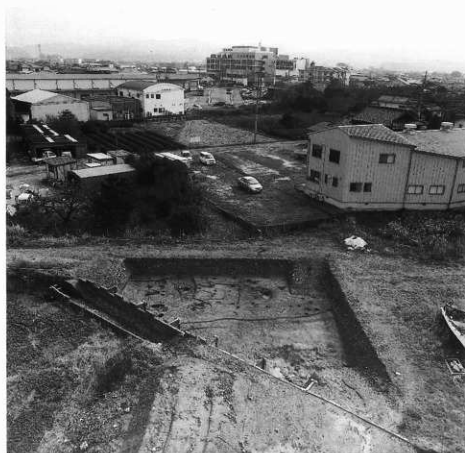


第37図 八反畑遺跡 南側壁土層実測図〔1／60〕

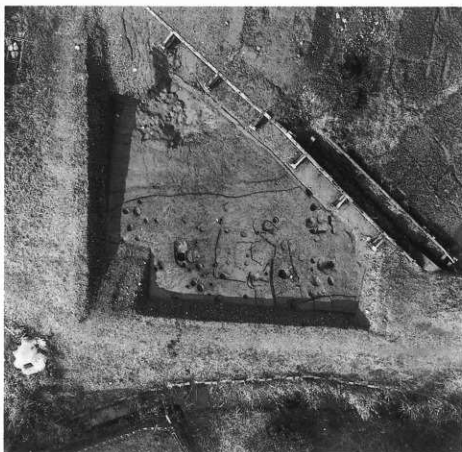
版 図



(1) 船底遺跡 3 次 発掘調査前 航空写真 (平成 20 年度撮影)



(2) 船底遺跡 3 次 航空写真



(1) 船底遺跡 3 次 航空写真



(2) 船底遺跡 3 次 全景 (東から)



(1) 船底遺跡 3次 SB 01



(3) 船底遺跡 3次 SB 01 遺物出土状況



(2) 船底遺跡 3次 SB 01 遺物出土状況



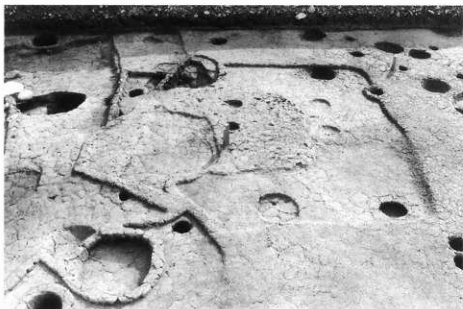
(4) 船底遺跡 3次 SB 02 (左側)



(1) 船底遺跡3次 SK01 (手前)・SK02 (奥)



(3) 船底遺跡3次 SK04 (奥)・SK05 (手前)



(2) 船底遺跡3次 SK03 (手前)・SK06 (奥)



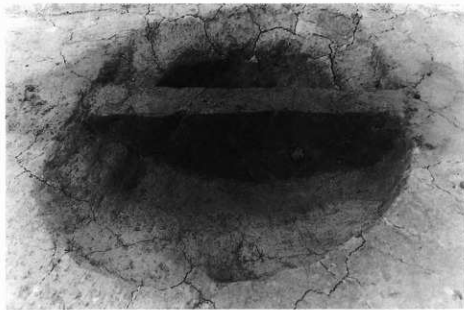
(4) 底遺跡3次 SK07



(1) 船底遺跡3次 SK03土層



(3) 船底遺跡3次 SK07土層



(2) 船底遺跡3次 SK04土層



(4) 船底遺跡3次 東側壁土層



(1) 船底遺跡3次 SD01



(3) 船底遺跡3次 SD01土層



(2) 船底遺跡3次 SX01



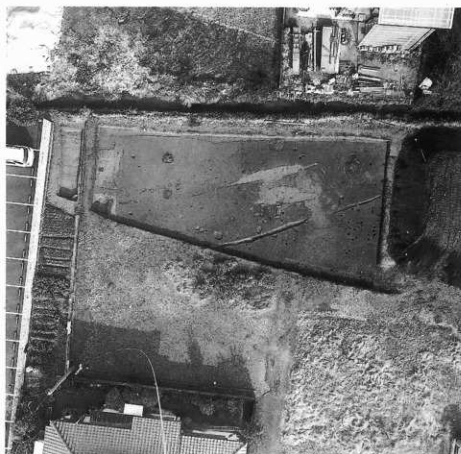
(4) 船底遺跡3次 作業風景



(1) 八反畑遺跡 発掘調査前 (西から)



(2) 八反畑遺跡 航空写真



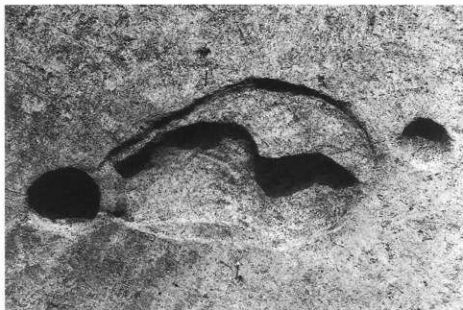
(1) 八反畑遺跡 航空写真



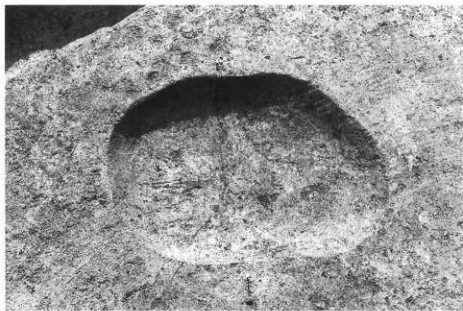
(2) 八反畑遺跡 全景 (東から)



(1) 八反畑遺跡 SA01



(2) 八反畑遺跡 SK01



(3) 八反畑遺跡 SK02



(1) 八反畑遺跡 SK03



(2) 八反畑遺跡 SK04



(3) 八反畑遺跡 SD01



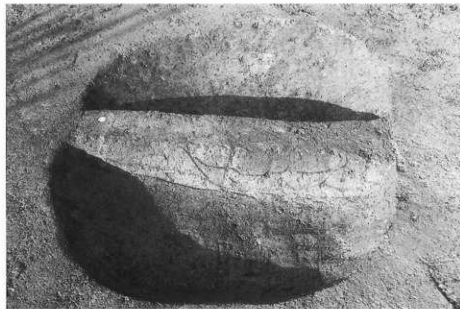
(1) 八反畑遺跡 北側壁土層



(3) 八反畑遺跡 SK01土層



(2) 八反畑遺跡 南側壁土層



(4) 八反畑遺跡 SK02土層



(1) 八反畑遺跡 SK03土層



(3) 八反畑遺跡 SD01土層



(2) 八反畑遺跡 SK04土層

報告書抄録

ふりがな	いっばんこくどう442ごうやめちくごばいばすまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	一般国道442号八女筑後バイパス埋蔵文化財調査報告書							
副書名	福岡県八女市大島・納楚所在遺跡の調査報告書							
巻次	Ⅶ							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第94集							
編著者名	中川 寿賀子							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
平成21年度調査 柳遺跡 (4次調査)	福岡県 八女市納楚	402109		33°12'58"	130°34'23"	2009 06 01 ~2010 03 12	約315㎡	道路建設
平成22年度調査 船底遺跡 (3次調査)	八女市納楚			33°12'62"	130°57'25"	2010 07 08 ~2010 12 02		
八反畑遺跡	八女市大島			33°21'71"	130°56'46"	2010 12 06 ~2011 03 11		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平成21年度調査 柳遺跡 (4次調査)	集落	弥生~奈良	住居跡・土壇・溝		弥生式土器・石器・ガラス玉 須恵器・土師器		遺物編	
平成22年度調査 船底遺跡 (3次調査)	集落	弥生・古墳	住居跡・土壇・溝		弥生式土器・石器 土師器			
八反畑遺跡	集落	歴史時代	土壇・溝・櫓列		土師器・陶磁器			

埋藏文化財調査報告書Ⅶ

八女市文化財調査報告書
第 94 集

平成 24 年 3 月 31 日

発行 八女市教育委員会
八女市本町 647
印刷 (株) 東 兄 弟
八女市祈祷院 563